

(様式第 10)

慶病企発第 29-1 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 慶應義塾
理事長 長谷山 彰 (印)

慶應義塾大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒108-8345 東京都港区三田二丁目15番45号
氏 名	慶應義塾

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

慶應義塾大学病院

3 所在の場所

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35	電話(03)3353-1211
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科 ②消化器内科 ③循環器内科 ④腎臓内科	
⑤神経内科 ⑥血液内科 ⑦内分泌内科 ⑧代謝内科	
⑨感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ⑪リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科 2内視鏡外科 3移植外科 4腫瘍外科 5形成外科 6頭頸部外科 7リハビリテーション科 8病理診断科 9臨床検査科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
31床	0床	0床	0床	1,013床	1,044床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	660人	45人	682.3人	看 護 補 助 者	106人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	25人	4人	27人	理 学 療 法 士	14人	臨 床 検 査 技 師	165人
薬 剤 師	107人	2人	107.5人	作 業 療 法 士	4人	検 査 衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視 能 訓 練 士	17人	そ の 他	0人
助 産 師	36人	0人	36.0人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	1078人	11人	1083.2人	臨 床 工 学 士	30人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	7人
准 看 護 師	2人	0人	2.0人	栄 養 士	7人	そ の 他 の 技 術 員	55人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4.0人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	253人
管理栄養士	10人	0人	10.0人	診 療 放 射 線 技 師	85人	そ の 他 の 職 員	6人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	72人	眼 科 専 門 医	18人
外 科 専 門 医	55人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	17人
精 神 科 専 門 医	16人	放 射 線 科 専 門 医	41人
小 児 科 専 門 医	29人	脳 神 経 外 科 専 門 医	8人
皮 膚 科 専 門 医	13人	整 形 外 科 専 門 医	29人
泌 尿 器 科 専 門 医	13人	麻 酔 科 専 門 医	24人
産 婦 人 科 専 門 医	33人	救 急 科 専 門 医	24人
		合 計	377人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (北川 雄光) 任命年月日 平成 29年 8月 1日

- ・一般消化器外科 診療科部長として科内の安全管理 平成19年4月～現在
- ・医療安全管理委員会（当院における名称：院内安全対策委員会）への参加
 中央手術部長として委員参加 平成28年9月～平成29年7月

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	704人	5.8人	709.8人
1日当たり平均外来患者数	2877.8人	177.1人	3,054.9人
1日当たり平均調剤数			5,270剤
必要医師数			232人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			66人
必要(准)看護師数			457人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,367m ²	RC	病床数	55床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 168 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	21床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 38 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	486 m ²		(主な設備) 分析器など			
細菌検査室	223 m ²		(主な設備) 分析器など			
病理検査室	286 m ²		(主な設備) 分析器など			
病理解剖室	162 m ²		(主な設備) 解剖設備など			
研究室	29,186m ²		(主な設備) ドラフトチャンバーなど			
講義室	1,453m ²		室数	7室	収容定員	1,391人
図書室	1,734m ²		室数	2室	蔵書数	421,700冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	85.7%	逆紹介率	46.1 %
算出根拠	A：紹介患者の数			24,454人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			15,410人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			4,201人
	D：初診の患者の数			33,436人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
山口 徹	虎の門病院	○	虎の門病院の元病院長であり、病院管理者として医療安全管理に携わり、幅広い知識と豊富な実務経験を有していること。また現在は日本医療安全調査機構の顧問として日本の医療安全の推進と教育に尽力されていること。	有・ 無	1
市村 尚子	名古屋大学 医学部 附属病院		現職の大学病院看護部長であり、看護管理者として医療安全管理について十分な知識と実務経験を有していること。	有・ 無	1
山口 育子	ささえあい 医療人権 センターCOML		医療を受ける者の立場を代表する患者支援団体の理事長として医療安全管理についての知識を有していること。また厚生労働省や日本医療安全調査機構等において各種委員を務めるなど、医療安全の向上のために幅広く活動し、尽力されていること。	有・ 無	2
宮沢 忠彦	関谷法律 事務所		長年におたり法曹界に身をおき、法律についての豊富な専門知識と実務経験を有していること。	有・ 無	1
中谷 比呂樹	慶應義塾大学		厚生労働省医官として医療行政に従事し、WHOでは感染症対策部門を牽引するなど、医療安全および国際的基準での対応について幅広い知識と国内・国外における経験を有していること。	有 ・無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
公表の方法 病院のホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	36人
前眼部三次元画像解析	41人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	3人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	27人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	0人
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	3人
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
ゾレドロン酸 γ δ T細胞を用いた免疫療法	0人
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断	15人
ヒドロキシクロロキン療法	3人
水素ガス吸入療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
トラスツズマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 対象となる患者さんには、初回手術の時点で抗がん剤を腹腔内に投与するための「腹腔リザーバーポート」を腹部の皮膚の下に埋め込みます。手術後の化学療法としては標準的なパクリタキセル＋カルボプラチン併用療法(TC療法)を行いますが、カルボプラチンは通常の静脈内投与ではなく、腹腔内投与にて行います。3週間を1サイクルとして、この治療法を6～8サイクル繰り返し続けます。			
医療技術名	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 clinical T1 ないし T2、NO胃癌症例に対して、術中センチネルリンパ節検索を行い、かつ胃癌治療ガイドラインに準拠し、1群+α ないし β のリンパ節郭清を施行する。術中転移診断によりセンチネルリンパ節に転移のない症例はこれ以上の郭清を施行しないが、転移のある症例に対しては2群までのリンパ節郭清を施行する。センチネルリンパ節の検索方法は、色素(Indocyanin green, Indigocarmine)とradioisotope(99m-Techetium labeled tin-colloid)による併用法で行い、いずれも内視鏡下に腫瘍原発巣直下に注入する。radioisotopeの取り扱い、日本核医学会のセンチネルリンパ節の核医学的検出法ガイドラインに準じて当院放射線科医管理下で行われている。センチネルリンパ節に集積したradioisotopeは、シンチグラフィとポータブル・ガンマプローブを用いて画像描出、RI計量を行っている。同定されたセンチネルリンパ節は摘出された後、術中迅速病理診断で転移の有無を検索する。			
医療技術名	放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 初発の中脳神経系原発悪性リンパ腫の患者様に対して、大量メトトレキサート療法と放射線治療を行う治療法(標準治療)と、大量メトトレキサート療法と放射線治療に加えテモゾロミドを併用する治療法(試験治療)を比較する医師主導臨床試験で、JCOG(ジェイコグ)という多施設共同臨床試験グループにより行われます(http://www.jcog.jp/) (慶應義塾大学病院は共同研究機関) この臨床試験への参加に同意いただけた場合、担当医が臨床試験への登録を行い、治療が始まります。「大量メトトレキサート療法＋放射線治療」か、「大量メトトレキサート療法＋放射線治療＋テモゾロミド」のどちらの治療法を受けていただくかは、「ランダム」に(五分五分の確率で)決まります。			
医療技術名	ゾレドロン酸γδT細胞を用いた免疫療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 今回の臨床試験は東京大学病院との共同試験で、試験に用いるγδT細胞の調整は東京大学病院で行い、患者さんへの投与は慶應義塾大学病院で行います。東京大学病院で患者さん自身の血液から成分採血で末梢血単核球(PBMC)を採取して凍結保存します。採取したPBMCを順次解凍し、そこに含まれるγδT細胞を無菌培養室で2週間培養し、数を増やし活性化させてから、慶應義塾大学病院でもう一度患者さんの静脈内に投与(点滴)して体に戻します。γδT細胞の投与は2週間毎に6回実施し、効果が確認された患者さんではさらに治療を継続します。			
医療技術名	テモゾロミド用量強化療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 初回再発あるいは増悪の膠芽腫の患者様に対して、ベバシズマブ療法(標準治療)と、用量を強化したテモゾロミド内服療法の再発後にベバシズマブ投与を行う逐次併用療法(試験治療:ベバシズマブ療法の前に、用量強化テモゾロミド療法を行う)を比較します。本臨床試験は、日本臨床腫瘍研究グループ(JGOG: http://www.jcog.jp/)が行う多施設共同臨床試験(JGOG1308C試験)であり、慶應義塾大学病院はその共同研究機関です。「ベバシズマブ療法」か「用量強化テモゾロミド療法＋その後再発時のベバシズマブ療法」かの治療群の選択は「ランダム」に(五分五分の確率で)決まります。試験治療群に割り付けられた場合に、本先進医療の適用となります。			
医療技術名	トラスツマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 本先進医療は、国家戦略特区の枠組みで計画され、厚労省より承認されました。切除不能な進行期乳房外パジェット病に対して、2種類の抗がん剤(トラスツマブ、ドセタキセル)を点滴投与し、その効果と安全性を評価します。いずれも乳癌における治療と同様に21日を1クールとし、3クール実施した後に効果を評価します。13名の患者さんが参加可能です。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する。特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	100
2	筋萎縮性側索硬化症	17	57	特発性拡張型心筋症	69
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	62
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	61
6	パーキンソン病	224	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	132
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	4	65	原発性免疫不全症候群	10
11	重症筋無力症	217	66	IgA腎症	12
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	18
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	146	68	黄色靱帯骨化症	11
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	23	69	後縦靱帯骨化症	84
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	8
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	47
17	多系統萎縮症	30	72	下垂体性ADH分泌異常症	20
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	45	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	43	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	15
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	57
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	10
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	11	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	64
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	21
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	84
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	2
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	150
34	神経線維腫症	55	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	179	90	網膜色素変性症	61
36	表皮水疱症	8	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	70
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	11
40	高安動脈炎	57	95	自己免疫性肝炎	21
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	580
42	結節性多発動脈炎	18	97	潰瘍性大腸炎	1254
43	顕微鏡的多発血管炎	14	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	24	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	16	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	26	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	18	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	434	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	116	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	168	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	60	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	96	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	34	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	26
113	筋ジストロフィー	14	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	4	167	マルファン症候群	16
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	2
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	2
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	11	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	5	210	単心室症	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	26	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	23
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	6	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	5
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	1
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	2
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	7
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	11
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・特定集中治療室管理料4
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・特定機能病院入院基本料	・総合周産期特定集中治療室管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料1
・診療録管理体制加算2	
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	
・看護職員夜間配置加算(12対1 配置加算1)	
・無菌治療室管理加算1・2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算	
・感染防止対策加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・データ提出加算2(200床以上)	
・退院支援加算2	
・認知症ケア加算	
・精神疾患診療体制加算	
・精神科急性期医師配置加算	
・地域歯科診療支援病院入院加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・光トポグラフィー
・移植後患者指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・院内トリアージ実施料	・コンタクトレンズ検査料
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検(片側)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算1
・薬剤管理指導料	・画像診断管理加算2
・医療機器安全管理料1	・遠隔画像診断
・医療機器安全管理料2	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・CT撮影及びMRI撮影
・歯科治療総合医療管理料	・冠動脈CT撮影加算
・持続血糖測定器加算	・心臓MRI撮影加算
・遺伝学的検査	・乳房MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・検体検査管理加算(I)	・外来化学療法加算1
・検体検査管理加算(IV)	・無菌製剤処理料
・国際標準検査管理加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血液内視鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限り)(歯科診療以外の診療に係るものに限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限り)(歯科診療以外の診療に係るものに限る)
・がん患者リハビリテーション料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限り)(歯科診療に係るものに限る)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限り)(歯科診療に係るものに限る)
・リンパ浮腫複合的治療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1 及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの) 及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・救急患者精神科継続支援料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除術)
・認知療法・認知行動療法	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・医療保護入院等診療料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・透析液水質確保加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・手術用顕微鏡加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング 機能付き植込型除細動器交換術
・CAD/CAM冠	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・歯科技工加算	・補助人工心臓
・皮膚悪性腫瘍切除術 (悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)	・体外衝撃波胆石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・腹腔鏡下肝切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・生体部分肝移植術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	・同種死体肝移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び 脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・治療の角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は 帯状角膜変性に係るものに限る))	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・羊膜移植術	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・網膜再建術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・同種死体腎移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・生体腎移植術	・病理診断管理加算
・膀胱水圧拡張術	・口腔病理診断管理加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・人工尿道括約筋植込・置換術	
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	
・手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	
・輸血管理料 I	
・輸血適正使用加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・麻酔管理料 (I)	
・麻酔管理料 (II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・強度変調放射線治療 (IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・画像誘導密封小線源治療加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	
・光トポグラフィ検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	
・パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断科 約年80回 臨床検査科 約週1回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 46例 / 剖検率 12.3%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
多層のオミックス解析による、がん、精神疾患、腎疾患を対象とした医療技術開発	金井 弥栄	病理学	21,100,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腎疾患を対象とした医療技術開発のエピゲノム拠点における解析	金井 弥栄	病理学	12,700,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多層のオミックス解析による、がん、精神疾患、腎疾患を対象とした医療技術開発	金井 弥栄	病理学	13,750,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
リコンビナントヒトIGF-1(メカセルミン)の突発性難聴への適応拡大のための医師主導治験	小川 郁	耳鼻咽喉科学	487,500	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
病理学的特性に基づく糖鎖ターゲットの同定と検証	坂元 亨宇	病理学	72,500,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた再生心筋細胞移植による重症心不全治療法の確立	福田 恵一	内科学(循環器)	261,400,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた角膜再生治療法の開発	榛村 重人	眼科学	67,053,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
重症高アンモニア血症を生じる先天性代謝異常症に対するヒト胚性幹(ES)細胞製剤に関する臨床研究	黒田 達夫	小児科学	3,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞技術を基盤とする血小板製剤の開発と臨床試験	渡邊 直英	輸血細胞療法センター	31,616,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞技術を用いた神経難病研究	岡野 栄之	生理学	140,500,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた遺伝性心筋疾患の病態解明および治療法開発	福田 恵一	内科学(循環器)	42,130,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞由来神経前駆細胞を用いた脊髄損傷・脳梗塞の再生医療	岡野 栄之	生理学	298,498,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
培養腸上皮幹細胞を用いた炎症性腸疾患に対する粘膜再生治療の開発拠点	佐藤 俊朗	内科学(消化器)	36,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

NKT細胞再生によるがん免疫治療技術開発拠点	岡野 栄之	生理学	5,200,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
幹細胞パッケージングを用いた臓器再生技術と新規移植医療の開発	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	44,240,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多能性幹細胞から多種類の分化細胞を、最短時間、高効率、高品質、大量、自在に生産するための基盤技術開発と産業化応用	洪 実	坂口光洋記念講座(システム医学)	15,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ダイレクトリプログラミングによる心臓再生と分子基盤解明	家田 真樹	内科学(循環器)	15,600,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神・神経疾患特異的iPS細胞を用いた創薬研究	岡野 栄之	生理学	59,200,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた再生医療における組織不適合の解決	福田 恵一	内科学(循環器)	6,500,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療	中村 雅也	整形外科学	30,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞由来治療用角膜内皮代替細胞に関する臨床研究	榛村 重人	眼科学	50,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血小板製剤前臨床薬効評価、規格決定(同種血小板輸血製剤の上市に向けた開発)	渡邊 直英	輸血細胞療法センター	3,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
外来因子フリー難病由来iPS細胞のライブラリー構築とそれを使った疾患モデルと薬剤開発	房木 ノエミ	眼科学	1,170,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
投与方法に関する標準化と教育訓練(重症高アンモニア血症を生じる尿素サイクル異常症に対するヒト胚性幹(ES)細胞由来再生医療等製品に関する医師主導治験)	黒田 達夫	国立成育医療研究センター	6,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
1-2.分化誘導(培養) 1-2-1.安定高効率と低コスト化及び大スケール化を実現するための分化誘導法の開発:②大スケール神経細胞分化誘導法の開発(ヒト多能性幹細胞由来の再生量製品製造システムの開発)	岡野 栄之	生理学	16,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
免疫チェックポイント阻害剤反応性を考慮したがん免疫微小環境とそれを反映する血液因子の解析による免疫制御分子の同定と制御法の開発	河上 裕	先端医科学研究所 細胞情報研究部門	26,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん多階層フェノタイプの理解に基づいた先端的創薬システムの開発	佐藤 俊朗	内科学(消化器)	28,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
酸化ストレス抵抗性を促進するアミノ酸輸送および代謝経路を標的としたがん幹細胞制御療法の開発	永野 修	先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門	29,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

「NGS技術を駆使した遺伝学的解析による家族性乳がんの原因遺伝子同定と標準化医療構築」(家族性乳がん患者およびその近親者のゲノムDNAの収集、臨床データを用いた病的アレルの解析)	青木 大輔	産婦人科学	1,550,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
「分子プロファイリングを基盤とした小児期からAYA世代に発症する難治がんの新規治療法の開発」(治療抵抗性腫瘍の病理診断、免疫学的染色法による検討)	大喜多 肇	病理学	600,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
グリオーマ幹細胞の代謝特性を標的とした新しい治療法の開発	サンベトラ オルテア	先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門	10,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Adolescent and young adult (AYA)世代に及ぶ骨・軟部肉腫ならびに固形がんに対する妊娠、晩期合併症に考慮した治療プロトコール開発に関する研究	黒田 達夫	外科学(小児)	22,472,484	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	青木 大輔	産婦人科学	95,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法法の標準治療確立のための研究	浅村 尚生	外科学(呼吸器)	13,350,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行期悪性黒色腫(末端黒子型)に対する非骨髄破壊性前処置併用での腫瘍浸潤リンパ球輸注療法の安全性試験	河上 裕	先端医科学研究所 細胞情報研究部門	23,054,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	28,399,998	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
固形がん幹細胞を標的とした革新的治療法の開発に関する研究	永野 修	先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門	11,180,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究	辻 哲也	リハビリテーション医学	20,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム情報で規定される超高リスク群の診断と、層別化・個別化予防のためのエビデンス構築をめざした臨床観察研究	青木 大輔	産婦人科学	390,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未治療原発不明癌に対する次世代シーケンシングを用いた原発巣推定に基づく治療効果の意義を問う第II相試験	竹内 文乃	衛生学・公衆衛生学	1,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	森岡 秀夫	整形外科	450,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
眼部希少がんの発生・多様性獲得機構の「鍵となる」分子・分子経路の特定と、二次がん発生のサーベイランス体制の確立	芝田 晋介	電子顕微鏡研究室	2,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ユースング肉腫におけるリプログラミング関連因子の同定(小児固形腫瘍とリプログラミングの破綻:発がん機構解明から臨床応用へ)	大喜多 肇	病理学	3,640,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

JCOG肺がん外科グループ代表としての研究の総合統括(非浸潤または非小細胞肺癌に対する標準的機能温存手術の確立に関する研究)	浅村 尚生	外科学(呼吸器)	300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
[1] ケース・コントロール研究およびコホート研究のプロトコール実行 [2] 臨床サンプルの収集・発癌リスク症例へのリスク低減手術 [3] CIN組織および癌組織に浸潤する免疫担当細胞の解析・既存の予後マーカーの解析(ゲノム・エピゲノム解析による子宮頸癌前駆病変(CIN)患者の子宮頸癌発癌リスクの特定とそれに基づくCIN患者の個別化リスク低減法に関する研究)	岩田 卓	産婦人科学	3,500,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
局所進行食道癌に対して、治療の有効性向上を目指した新しい術前治療を確立する研究	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	499,850	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高リスク群腫瘍の中央病理診断と分子診断マーカー解析(難治性小児悪性固形腫瘍における診断バイオマーカーの同定と新規治療法の開発に関する研究)	大喜多 肇	病理学	800,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん治療による神経系合併症(認知機能障害と痛み)の緩和に関する研究	小松 浩子	看護医療学部(信濃町)	1,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するテモゾロミドを用いた標準治療確立に関する研究	佐々木 光	脳神経外科学	625,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	青木 大輔	産婦人科学	1,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がんの早期診断に資する新規のPBT薬剤標識技術開発と普及に向けた自動合成装置の開発に関する研究	高橋 和弘	放射線科学(診断)	1,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
食道亜全摘術を行う食道癌患者における急性肺合併症に対するOSK-0028の有効性及び安全性の検討(第II相試験)(グレリン投与による高齢者食道癌手術の安全性向上に関するランダム化第2相試験)	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	400,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高精度エピゲノム胃がんリスク診断の確立と多層的食道がんリスク診断の開発、(ピロリ菌除菌後健常者の中の胃がん高危険度群の高精度捕捉の前向き臨床研究(病理学的解析))	新井 恵吏	病理学	2,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
効率の良いガイドラインの運用に向けた手引きの作成(統括)(生殖機能温存がん治療法の革新的発展にむけた総合的プラットフォームの形成)	青木 大輔	産婦人科学	490,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳のシステム論的理解に基づく革新的BMIリハビリテーション機器・手法の開発と臨床応用～脳卒中片麻痺を中心として～	里宇 明元	リハビリテーション医学	96,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
「遺伝子改変マームセットの汎用性拡大および作出技術の高度化とその脳科学への応用」(キメラ形成能を持つマームセットES細胞を用いた新たな遺伝子改変技術の開発とマームセットゲノム情報基盤の確立)	塩澤 誠司	生理学	56,851,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

霊長類ミクロ・マクロコネクトーム解析及びマナーモセット脳科学研究支援	芝田 晋介	電子顕微鏡研究室	199,908,800	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AMPA受容体の量に基づく精神神経疾患の新規病型分類と治療法の開発	三村 将	精神・神経科学	43,387,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究	三村 将	精神・神経科学	15,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神疾患患者早期介入のための医療従事者向け研修プログラム開発-メンタルヘルス・ファーストエイドの応用-	藤澤 大介	精神・神経科学	399,893	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新たな認知行動療法プログラムによる疾病治療ならびに健康増進とその普及による健康イノベーション創出	中川 敦夫	臨床研究推進センター	6,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
耳鳴診療ガイドラインの開発に関する研究	小川 郁	耳鼻咽喉科学	2,939,120	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性クローン病に対する神経難病治療薬OCH-NCNPの有用性および安全性を検証する医師主導治験	金井 隆典	内科学(消化器)	94,900,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規BAFF受容体阻害剤を用いたシェーグレン症候群の革新的治療薬の開発	竹内 勤	内科学(リウマチ)	32,630,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ドラッグリポジショニングによる神経線維腫症1型の進行阻止薬の開発	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	29,770,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
後縦靭帯骨化症の病態解明・治療法開発に関する研究	松本 守雄	整形外科学	34,320,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
先天性リンパ管疾患の診療指針作成及び病理・細胞生物学的知見の臨床応用へ向けた研究	黒田 達夫	外科学(小児)	11,960,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ガイドライン最適化を目的とした自己免疫性水疱症に対する抗CD20抗体療法の評価	天谷 雅行	皮膚科学	39,880,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
経皮的肺動脈形成術における生体吸収性ステントの安全性と有効性の検討	福田 恵一	内科学(循環器)	9,880,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Pendred症候群由来疾患iPS細胞を用いた病態生理と新規治療標的の探索およびiPS細胞技術を用いた症例毎の薬剤感受性の事前予測に関する研究	小川 郁	耳鼻咽喉科学	15,990,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
G-CSFによる筋ジストロフィー治療方法の開発	福田 恵一	内科学(循環器)	15,600,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

マルファン症候群及び類縁疾患についての治療薬剤スクリーニングとモデル動物を用いた評価に関する調査研究	佐谷 秀行	先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門	12,220,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人における未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	25,900,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
心臓線維芽細胞をターゲットとする心筋再生遺伝子治療薬の開発	家田 真樹	内科学(循環器)	16,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
診断法・モニタリング法の確立・SLCO2A1遺伝子変異の機能解析(難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索)	杉浦 悠毅	医化学	5,200,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
診断法・モニタリング法の確立・SLCO2A1遺伝子変異の機能解析(難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索)	緒方 晴彦	内視鏡センター	2,262,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
疾患特異的腸内細菌の探索(独自の体外病態モデルによる難治性炎症性腸疾患の革新的治療薬開発に関する研究)	金井 隆典	内科学(消化器)	1,040,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脊柱靭帯骨化症の治療指針策定および手術治療の質を高めるための大規模多施設研究(胸椎黄色靭帯骨化症研究担当)(脊柱靭帯骨化症の治療指針策定および手術治療の質を高めるための大規模多施設研究)	松本 守雄	整形外科学	800,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
①網羅的遺伝子発現解析とbioinformaticsによる新規分子標的の探索、②MPA, GPAを対象とするトシリズマブの医師主導治験準備(ANCA関連血管炎の新規治療薬開発を目指す戦略的シーズ探索と臨床的エビデンス構築研究)	竹内 勤	内科学(リウマチ)	1,950,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
③Lactoferrin(Lf)由来ペプチドを用いたNETs制御による新規治療薬開発(ANCA関連血管炎の新規治療薬開発を目指す戦略的シーズ探索と臨床的エビデンス構築研究)	平橋 淳一	血液浄化・透析センター	1,950,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
SRS, TS14, KOS14症例の集積、遺伝子診断症例の臨床像および治療法の情報集積、臨床像・治療法の解析、診療ガイドライン作成(遺伝子診断に基づいたインプリンティング異常症4疾患の臨床像および治療法の評価に関する研究)	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	650,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	中村 雅也	整形外科学	1,040,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
もやもや病診療の質を高めるためのエビデンス構築を目指した包括的研究(レジストリ構築のための学外ワーキンググループ)	鈴木 則宏	内科学(神経)	500,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
重症型原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築	伊藤 裕	内科学(腎・内・代)	1,699,999	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

遺伝子診断体制構築に関する研究(小児科・産科領域疾患の大規模遺伝子解析ネットワークとエピゲノム解析拠点整備)	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	5,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
二次リンパ組織の形態及び機能形成に関する免疫学的研究(医療用免疫不全モデルマウスを用いた原発性免疫不全症候群に対する新規治療技術開発に向けた基盤研究)	北郷 実	外科学(一般・消化器)	1,524,744	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
IBDの治療標的としてのLRGの全般的評価及び臨床試験の準備(新規治療標的分子LRGの炎症性腸疾患における役割の解明と創薬への応用)	竹内 勤	内科学(リウマチ)	1,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
IBDの治療標的としてのLRGの全般的評価及び臨床試験の準備(新規治療標的分子LRGの炎症性腸疾患における役割の解明と創薬への応用)	金井 隆典	内科学(消化器)	2,340,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Kii ALS/PDC患者由来iPS細胞の神経系細胞への分化誘導技術開発とin vitroにおける疾患メカニズム解析 ①樹立済みKii ALS/PDC患者由来iPS細胞を用いた疾患表現型の解析 ②ヒトiPS細胞からのニューロン・アストロサイトの分化誘導系の構築 ③新規Kii ALS/PDC患者由来iPS細胞の樹立・品質評価・神経系分化誘導(紀伊ALS/PDC 診療ガイドラインの作製と臨床研究の推進)	石川 充	生理学	600,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症(ALS)新規治療法開発をめざした病態解明	岡野 栄之	生理学	1,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
病態解明(重症薬疹における病因的T細胞の解析)(重症薬疹における特異的細胞死誘導受容体をターゲットにした新規治療薬開発)	高橋 勇人	皮膚科学	1,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医師主導治験第I相試験実施計画書作成および実施・医師主導治験第II相試験のための患者スクリーニング・医師主導治験第II相試験実施計画書作成および実施 (表皮水疱症に対する新たな医薬品の実用化に関する研究)	天谷 雅行	皮膚科学	3,900,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Stevens-Johnson症候群慢性期の診断基準・実態調査と治療法の確立	別役 智子	内科学(呼吸器)	650,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
全身性エリテマトーデス病因遺伝子調節分子の検索	竹内 勤	内科学(リウマチ)	900,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
全身性エリテマトーデス患者における初回副腎皮質ホルモン治療に続発する大腿骨頭壊死症の発生予防(特発性大腿骨頭壊死症の治療法確立と革新的予防法開発にむけた全国的学際研究)	竹内 勤	内科学(リウマチ)	750,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性炎症性腸疾患を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施(患者登録体制の構築とPhaseIIプロトコールの作成およびPhase IIの実施)	金井 隆典	内科学(消化器)	1,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

性分化・性成熟疾患の遺伝子解析(性分化・性成熟領域38疾患の診療ガイドライン作成に向けた遺伝子診断法の確立)	長谷川 奉延	小児科学	4,550,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Stevens-Johnson症候群慢性期の診断基準・実態調査と治療法の確立	小川 葉子	眼科学	1,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	福田 恵一	内科学(循環器)	200,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
消化管ペプチドグレリンによる慢性腎臓病新規治療戦略の確立	伊藤 裕	内科学(腎・内・代)	5,980,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
皮膚・腸内微生物叢解析によるアトピー性皮膚炎発症機序の解明	天谷 雅行	皮膚科学	31,200,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
NSAIDs不耐症及び重症薬疹患者のウイルス叢の解析と臨床症状との相関解析(NSAIDs不耐症におけるブレイクスルーを目指した病因・機序の解明、および、NSAIDs誤使用ゼロを目指す具体的対策の実行に関する研究)	佐々木 貴史	百寿総合研究センター	8,450,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
造血幹細胞移植に用いる細胞の安全な処理・保存・品質管理体制の確立に関する研究	田野崎 隆二	輸血細胞療法センター	5,835,333	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
本邦における同種造血幹細胞移植の最適化を目指した移植医療体制の確立と国際的視点からのHarmonizationに関する研究	岡本 真一郎	内科学(血液)	7,927,790	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
既存薬ライブラリからの気管支喘息治療薬の開発(2型自然リンパ球による気管支喘息の発症機構解明と診断・治療法の開発)	福永 興壱	内科学(呼吸器)	2,444,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MTX-PGとIL-6を用いた関節破壊ゼロ予測因子に関する研究(関節リウマチの「ドラッグホリデー」と関節破壊「ゼロ」を目指す治療法の確立に関する研究)	竹内 勤	内科学(リウマチ)	1,499,999	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アレルギー性気管支肺真菌症の新・診断基準の検証と新規治療開発	福永 興壱	内科学(呼吸器)	500,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慶應義塾大学病院におけるハイリスク乳児の追跡および乳幼児アトピー性皮膚炎の治療・アウトカム測定(アレルギーマーチを阻止する乳児アトピー性皮膚炎早期介入研究)	高橋 孝雄	小児科学	650,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床皮膚検体の採取とバリア・神経イメージング解析(アトピー性皮膚炎の慢性搔痒を引き起こす末梢神経変化の解明)	天谷 雅行	皮膚科学	2,600,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MIRAGE症候群モデルマウスの作製・解析(MIRAGE症候群の治療法開発に向けた基礎的研究)	長谷川 奉延	小児科学	1,500,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

携帯型心電計による不整脈かかりつけ 医ネットワーク構築	福田 恵一	内科学(循環器)	30,030,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
心房細動発症リスクと重症化リスクの層 別化指標の確立を目的とした大規模コ ホート・レジストリー共同研究(慶應 KiCS-AF レジストリー、心房細動発症リ スク、データ統合と統計解析)	福田 恵一	内科学(循環器)	585,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
心房細動発症リスクと重症化リスクの層 別化指標の確立を目的とした大規模コ ホート・レジストリー共同研究(慶應 KiCS-AF レジストリー、心房細動発症リ スク、データ統合と統計解析)	宮田 裕章	医療政策・管理学	585,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
慢性心不全患者に対する多職種介入を 伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの 臨床的効果と医療経済的効果を調べる 研究	宮田 裕章	医療政策・管理学	390,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
脳卒中を含む循環器病対策の評価指標 の開発に関する研究	宮田 裕章	医療政策・管理学	780,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
脳卒中・循環器病の遠隔医療の開発と 検証のための研究	高月 誠司	内科学(循環器)	910,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
培養細胞感染系が確立されていない病 原体の新たな感染複製系等の開発とそ れを用いた診断・治療・予防法の開発に 向けた研究	佐藤 俊朗	内科学(消化器)	1,400,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長 期的動向把握に関する研究	加藤 真吾	微生物学・免疫学	700,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
非炎症性肝がん患者を対象とした網羅 的免疫プロファイルの解析(非炎症性ガ ンに関与する微小環境の解明に基づく 病態関連マーカーと治療法の開発)	河上 裕	先端医科学研究所 細胞 情報研究部門	2,600,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
免疫システムを標的としたB型発癌に対 する新たな治療法および発癌予測マ ーカーの開発(B型肝炎における自然免疫 の機能解明とその制御による発癌抑止 法開発)	地主 将久	先端医科学研究所 細胞 情報研究部門	6,000,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
多施設共同研究による肝移植後肝炎ウ イルス新規治療の確立と標準化(高悪 性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立の ための研究)	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	200,001	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症 度・治療介入時期・治療効果判定・予 後予測)のための非侵襲的病態診断ア ルゴリズムの確立	坂元 亨宇	病理学	3,000,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
T細胞のエピジェネティック改変による免疫 疾患制御	吉村 昭彦	微生物学・免疫学	55,250,000	補 委 ○	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構

腸内常在細菌特性理解に基づく難治性疾患新規治療法の開発	本田 賢也	微生物学・免疫学	38,350,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
代謝システム制御分子の系統的探索による治療戦略創出と創薬展開	加部 泰明	医化学	39,390,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト消化器上皮細胞の標準エピゲノム解析と解析技術開発	金井 弥栄	病理学	37,700,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内細菌叢制御による代謝・免疫・脳異常惹起メカニズムの解明と治療応用	杉浦 悠毅	医化学	3,900,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内細菌-上皮細胞相互作用から読み解く疾患発症メカニズムの解明	金井 隆典	内科学(消化器)	30,590,560	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内細菌-上皮細胞相互作用から読み解く疾患発症メカニズムの解明	佐々木 伸雄	内科学(消化器)	27,921,439	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
皮膚細菌叢と宿主の相互作用理解に基づく炎症性疾患制御法の開発	天谷 雅行	皮膚科学	18,200,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
DOCKファミリー分子の生体機能と動作原理の理解に基づく革新的医薬品の創出	杉浦 悠毅	医化学	13,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸内細菌株カクテルを用いた新規医薬品の創出	本田 賢也	微生物学・免疫学	75,010,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
伸展刺激による心筋プログラミング制御の分子機構解明と心臓再生への応用	家田 真樹	内科学(循環器)	13,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規T細胞サブセットを規定するコレステロール代謝酵素の機能解析と疾患制御への応用	高橋 勇人	皮膚科学	5,200,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺高血圧症の病態形成に関わる機能性脂質の質的量的制御による新たな治療戦略の創出	遠藤 仁	内科学(循環器)	5,200,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
原因不明遺伝子関連疾患の全国横断的症例収集・バンキングと網羅的解析	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	133,400,100	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
胚細胞の遺伝子解析に基づく新時代の生殖医療の開発(生殖補助医療の技術の標準化と出生児の安全性に関する研究)	末岡 浩	産婦人科学	1,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
卵胞内エクソソームに注目した卵子老化の研究(卵子の老化および生殖細胞、卵巣の凍結保存に関する研究)	浜谷 敏生	産婦人科学	2,350,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

幹細胞を標的とした子宮内膜症の病態解明と新しい薬剤評価システム・治療薬の開発	丸山 哲夫	産婦人科学	9,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳卒中後上肢麻痺に対する脳波-BMIリハビリテーションシステムの医師主導治験	里宇 明元	リハビリテーション医学	60,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自己心膜製スtentレス僧帽弁置換術の安全性と効果に関する研究	饗庭 了	外科学(心臓血管)	1,259,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
超軟質精密心臓レプリカの作成による心臓外科手術トレーニングと個別化医療の確立に向けた研究	山岸 敬幸	小児科学	400,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
企業人材の育成と連動した革新的国産内視鏡治療機器の研究開発	矢作 直久	腫瘍センター	750,001	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未来医療を実現する先端医療機器・システムの研究開発/先端医療機器の開発/高い安全性と更なる低侵襲化および高難度治療を可能にする軟性内視鏡手術システムの研究開発	和田 則仁	外科学(一般・消化器)	61,000,400	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未来医療を実現する先端医療機器・システムの研究開発/先端医療機器の開発/麻痺した運動や知覚の機能を回復する医療機器・システムの研究開発	里宇 明元	リハビリテーション医学	150,989,890	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療情報の高度利用による医療システムの研究開発/がん診断・治療ナビゲーションシステムの研究開発	坂元 亨宇	病理学	19,190,639	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
立体造形による機能的な生体組織製造技術の開発/細胞を用いた機能的な立体臓器作製技術の研究開発/細胞シート工学を基盤とした革新的立体臓器製造技術の開発	小林 英司	ブリヂストン臓器再生医学寄附講座	8,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
表情・音声・日常生活活動の定量化から精神症状の客観的評価をリアルタイムで届けるデバイスの開発	岸本 泰士郎	精神・神経科学	42,646,679	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未来医療を実現する医療機器・システム研究開発 低侵襲がん診療装置開発プロジェクト 磁気ナノ粒子によるセンチネルリンパ節の特定とがん転移の迅速診断法の開発	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	11,220,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MHC統御カニクイザルの有用性評価と計画生産の検討	木須 伊織	産婦人科学	12,127,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
蛍光磁性ビーズを利用した高速高感度免疫測定システムの実用化開発	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	1,144,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ADAM28を標的とした肺がん分子標的医薬の開発	下田 将之	病理学	5,850,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

多能性幹細胞と栄養外胚葉幹細胞の運命を分ける転写因子とエピジェネティクスの階層性	洪 実	坂口光洋記念講座(システム医学)	10,829,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
希少・難治性疾患領域における臨床ゲノムデータストレージの整備に関する研究	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	202,540,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
認知症臨床ゲノム情報データベース構築に関する開発研究	三村 将	精神・神経科学	24,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
真に個別患者の診療に役立ち領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	67,522,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
保存血清のメタボローム解析による疾患診断の有用性の検証と応用	加部 泰明	医化学	47,410,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
心臓突然死の発症リスク遺伝子の解明と層別化システムの構築(東京における致死性不整脈の臨床情報データベース構築)	相澤 義泰	内科学(循環器)	910,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
メディカル・ゲノムセンター等におけるゲノム医療実施体制の構築と人材育成に関する研究	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	19,656,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医師主導治験の実施に関する研究(ギラン・バレー症候群に対するエクシズマブの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験)	鈴木 則宏	内科学(神経)	780,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	大家 基嗣	泌尿器科学	273,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺癌に対する γ δ T細胞治療	副島 研造	臨床研究推進センター	9,568,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究	黒田 達夫	外科学(小児)	2,625,480	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬物乱用頭痛における抑肝散の有効性の検討	鈴木 則宏	内科学(神経)	300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
National Clinical Databaseに基づく新しいベンチマーキング体制の構築に関する研究 -次世代型Evidenced Based Medicineの基盤形成-	宮田 裕章	医療政策・管理学	5,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療の質向上を目的とした臨床データベースの共通プラットフォームの構築	宮田 裕章	医療政策・管理学	60,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慶應義塾病院における利活用基盤への接続に関する研究	宮田 裕章	医療政策・管理学	3,300,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

ICTを活用した血液の需要や適正使用の向上に関する研究	渡邊 直英	輸血細胞療法センター	336,700	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用ガイドライン作成に関する研究	志水 秀行	外科学(心臓血管)	350,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞を含む幹細胞の臨床研究応用の技術支援と国際的な情報の発信と収集	岡野 栄之	生理学	6,500,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝性腫瘍の遺伝学的検査とバイオバンクに関するELSIの情報共有	平沢 晃	産婦人科学	2,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
革新的医療実現のための非臨床・臨床一体型の橋渡し研究拠点	副島 研造	臨床研究推進センター	667,913,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
癌幹細胞を標的とした進行非扁平上皮非小細胞肺癌におけるシスプラチン+ペムトレキセド+スルファサラジン併用療法の第I相試験(医師主導治験)	佐谷 秀行	先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門	27,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
核酸医薬による遺伝性パーキンソン病の治療	岡野 栄之	生理学	5,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血液凝固異常症等に関する研究	村田 満	臨床検査医学	22,107,000	補委 ○	厚生労働省
機能亢進型GNAS変異関連疾患の表現型スペクトラムに関する研究	長谷川 奉延	小児科学	1,006,000	補委 ○	厚生労働省
o-トルイジン等芳香族アミンによる膀胱がんに係る研究	武林 亨	衛生学公衆衛生学	15,523,000	補委 ○	厚生労働省
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	天谷 雅行	皮膚科学	23,622,000	補委 ○	厚生労働省
循環器疾患における集団間の健康格差の実態把握とその対策を目的とした大規模コホート共同研究	岡村 智教	衛生学・公衆衛生学	29,820,000	補委 ○	厚生労働省
国際標準に立脚した奇形症候群領域の診療指針に関する学際的・網羅的検討	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	39,129,000	補委 ○	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	松本 守雄	整形外科学	300,000	補委 ○	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	中村 雅也	整形外科学	500,000	補委 ○	厚生労働省

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	金井 隆典	内科学(消化器)	300,000	補委 ○	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	緒方 晴彦	内視鏡センター	300,000	補委 ○	厚生労働省
呼吸不全に関する調査研究	別役 智子	内科学(呼吸器)	100,000	補委 ○	厚生労働省
脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	竹内 勤	内科学(リウマチ)	150,000	補委 ○	厚生労働省
骨髄バンクコーディネーター期間の短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究	岡本 真一郎	内科学(血液)	300,000	補委 ○	厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究	福田 恵一	内科学(循環器)	200,000	補委 ○	厚生労働省
遺伝子診断に基づく不整脈疾患群の病態解明および診断基準・重症度分類・ガイドライン作成に関する研究	福田 恵一	内科学(循環器)	150,000	補委 ○	厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究	小川 郁	耳鼻咽喉科学	500,000	補委 ○	厚生労働省
HIV検査受検勧奨に関する研究	加藤 真吾	微生物学・免疫学	9,500,000	補委 ○	厚生労働省
個人番号カードを活用した医療従事者認証手法に関する研究	安藤 裕	放射線科学(治療)	700,000	補委 ○	厚生労働省
社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究:NIPPON DATA80/90/2010	岡村 智教	衛生学・公衆衛生学	450,000	補委 ○	厚生労働省
70歳、80歳、90歳の高齢者の歯、口腔の状態が健康長寿に及ぼす影響についての前向きコホート研究	新井 康通	百寿総合研究センター	200,000	補委 ○	厚生労働省
キャスルマン病の病学診療実態調査と患者団体支援体制の構築に関する研究	岡本 真一郎	内科学(血液)	50,000	補委 ○	厚生労働省
我が国の関節リウマチ診療標準化のための研究	金子 祐子	内科学(リウマチ)	200,000	補委 ○	厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	井上 詠	予防医療センター	400,000	補委 ○	厚生労働省

非肥満者に対する保健指導方法の開発に関する研究	岡村 智教	衛生学・公衆衛生学	400,000	補委 ○	厚生労働省
系統的レビューとコホート研究に基づく特定健診質問票の開発	岡村 智教	衛生学・公衆衛生学	300,000	補委 ○	厚生労働省
性分化・性成熟疾患群における診療ガイドラインの作成と普及	長谷川 奉延	小児科学	350,000	補委 ○	厚生労働省
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	肥沼 悟郎	小児科学	100,000	補委 ○	厚生労働省
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	黒田 達夫	外科学(小児)	350,000	補委 ○	厚生労働省
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	藤野 明浩(4/30まで、入金なし)	外科学(小児)	0	補委 ○	厚生労働省
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	渕本 康史	小児科学	100,000	補委 ○	厚生労働省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	高橋 勇人	皮膚科学	350,000	補委 ○	厚生労働省
スモンに関する調査研究	里宇 明元	リハビリテーション医学	700,000	補委 ○	厚生労働省
エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類・治療アルゴリズムの確立	鈴木 則宏	内科学(神経)	250,000	補委 ○	厚生労働省
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	黒田 達夫	外科学(小児)	1,200,000	補委 ○	厚生労働省
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	藤野 明浩	外科学(小児)	2,500,000	補委 ○	厚生労働省
健康診査・保健指導の有効性評価に関する研究	岡村 智教	衛生学・公衆衛生学	1,400,000	補委 ○	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	長谷川 奉延	小児科学	300,000	補委 ○	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患の移行期を包含し診療の質の向上に関する研究	黒田 達夫	外科学(小児)	100,000	補委 ○	厚生労働省

もやもや病(ウイルス動脈輪閉塞症)の診断・治療に関する研究	鈴木 則宏	内科学(神経)	500,000	補委 ○	厚生労働省
希少難治性角膜疾患の疫学調査	坪田 一男	眼科学	700,000	補委 ○	厚生労働省
ミトコンドリア病の調査研究	末岡 浩	産婦人科学(産科)	300,000	補委 ○	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	岩崎 栄典	内科学(消化器)	400,000	補委 ○	厚生労働省
わが国における遺伝性乳癌卵巣癌の臨床遺伝学的特徴の解明と遺伝子情報を用いた生命予後の改善に関する研究	青木 大輔	産婦人科学(婦人科)	1,000,000	補委 ○	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	竹内 勤	内科学(リウマチ)	700,000	補委 ○	厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	竹内 勤	内科学(リウマチ)	250,000	補委 ○	厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	岡本 真一郎	内科学(血液)	400,000	補委 ○	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	坪田 一男	眼科学	300,000	補委 ○	厚生労働省
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究	古川 俊治	法科大学院	100,000	補委 ○	厚生労働省
次世代シーケンサーを用いた小児遺伝性疾患の診断システムの開発	小崎健次郎	臨床遺伝学センター	600,000	補委 ○	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
脳卒中啓発活動の推進	岡村智教	衛生学公衆衛生学	300,000	補委 ○	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
医療施策の必要性に応じた仮説の構築	岡村智教	衛生学公衆衛生学	700,000	補委 ○	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
右心機能・肺高血圧データ解析	福田 恵一	内科学(循環器)	500,000	補委 ○	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
生理活性ペプチドのミトコンドリア調節機構の解明と臨床応用に向けた基盤的研究	伊藤裕	内科学(腎・内・代)	1,200,000	補委 ○	国立研究開発法人国立循環器病研究センター

遺伝子改変マウスを用いた心血管形態形成機構の解析	山岸敬幸	小児科学	1,200,000	補委 ○	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
コホート研究における精神疾患関連要因、および、実態調査	三村将	精神・神経科学	800,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
食道がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	北川雄光	外科学(一般・消化器)	500,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	森岡秀夫	整形外科学	300,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
新規分子標的治療薬の開発に関する研究	佐谷秀行	先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門	2,000,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
遺伝性腫瘍に関する情報の集計に関する研究と新規原因	青木大輔	産婦人科学(婦人科)	500,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
大人向けがん教育啓発プログラムコンテンツの開発	藤澤大介	精神・神経科学	1,100,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
呼吸器悪性腫瘍に対する手術を含む標準治療確立のための多施設共同研究	浅村尚生	外科学(呼吸器)	5,900,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
データベースの肺がん登録との連携の検討	浅村尚生	外科学(呼吸器)	600,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立がん研究センター
うつ病におけるインターネット支援型認知行動療法の有効性に関する単盲検ランダム化waiting-list比較対照試験(i-CBT Study)	中川敦夫	臨床研究推進センター	8,000,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
ジストロフィン欠損モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発	湯浅慎介	内科学(循環器)	1,000,000	補委 ○	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
作業関連疾患の予防等に資する一般定期健康診断を通じた効果的な健康管理に関する研究	武林 亨	衛生学・公衆衛生学	2,100,000	補委 ○	厚生労働省
臨床研究における被験者の安全確保のための体制強化	清家篤	学校法人慶應義塾	221,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
革新的医療実現のための非臨床・臨床一体型の橋渡し研究拠点	清家篤	学校法人慶應義塾	667,913,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
iPS細胞等臨床研究推進モデル病院の構築	竹内勤	慶應義塾大学病院	100,000,000	補委 ○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定 機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takeuchi T, Yamamoto K, Yamanaka H et al.	医学部内科学(リウマチ)	Post-hoc analysis showing better clinical response with the loading dose of certolizumab pegol in Japanese patients with active rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. 2016 Jul;26(4):473-80	Original Article
2	Naganuma M, Aoyama N, Suzuki Y et al.	医学部内科学(消化器)	Twice-daily Budesonide 2-mg Foam Induces Complete Mucosal Healing in Patients with Distal Ulcerative Colitis	J Crohns Colitis. 2016 Jul;10(7):828-36	Original Article
3	Funaki K, Nakajima S, Suzuki T et al.	医学部精神・神経科学	Early Improvements in Individual Symptoms to Predict Later Remission in Major Depressive Disorder Treated With Mirtazapine	J Clin Pharmacol. 2016 Sep;56(9):1111-9	Original Article
4	Seki T, Hayashida T, Takahashi M et al.	医学部外科学(一般・消化器)	A randomized controlled study comparing a vessel sealing system with the conventional technique in axillary lymph node dissection for primary breast cancer	Springerplus. 2016 Jul 7;5(1):1004	Original Article
5	Mori H, Suzuki H, Matsuzaki J et al.	医学部内科学(消化器)	Rifabutin-based 10-day and 14-day triple therapy as a third-line and fourth-line regimen for Helicobacter pylori eradication: A pilot study	United European Gastroenterol J. 2016 Jun;4(3):380-7	Original Article
6	Mori H, Suzuki H, Matsuzaki J et al.	医学部内科学(消化器)	Efficacy of 10-day Sitafloxacin-Containing Third-Line Rescue Therapies for Helicobacter pylori Strains Containing the gyrA Mutation	Helicobacter. 2016 Aug;21(4):286-94	Original Article
7	Nishizawa T, Ochiai Y, Uraoka T et al.	医学部内科学(消化器)	Endoscopic slip-knot clip suturing method: prospective pilot study (with video)	Gastrointest Endosc. 2017 Feb;85(2):433-437	Original Article
8	Uraoka T, Ochiai Y, Fujimoto A et al.	医学部腫瘍センター	A novel fully synthetic and self-assembled peptide solution for endoscopic submucosal dissection-induced ulcer in the stomach	Gastrointest Endosc. 2016 Jun;83(6):1259-64	Original Article
9	Kaneko Y, Atsumi T, Tanaka Y et al.	医学部内科学(リウマチ)	Comparison of adding tocilizumab to methotrexate with switching to tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis with inadequate response to methotrexate: 52-week results from a prospective, randomised, controlled study (SURPRISE study)	Ann Rheum Dis. 2016 Nov;75(11):1917-19	Original Article

10	Takeuchi T, Tanaka Y, Ishiguro N et al.	医学部内科学(リウマチ)	Effect of denosumab on Japanese patients with rheumatoid arthritis: a dose-response study of AMG 162 (Denosumab) in patients with Rheumatoid arthritis on methotrexate to Validate inhibitory effect on bone Erosion (DRIVE)-a 12-month, multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase II clinical trial	Ann Rheum Dis. 2016 Jun;75(6):983-90	Original Article
11	Takeuchi T, Tanaka Y, Iwasaki M et al.	医学部内科学(リウマチ)	Efficacy and safety of the oral Janus kinase inhibitor peficitinib (ASP015K) monotherapy in patients with moderate to severe rheumatoid arthritis in Japan: a 12-week, randomised, double-blind, placebo-controlled phase IIb study	Ann Rheum Dis. 2016 Jun;75(6):1057-64	Original Article
12	Amagai M, Ikeda S, Hashimoto T et al.	医学部皮膚科学	A randomized double-blind trial of intravenous immunoglobulin for bullous pemphigoid	J Dermatol Sci. 2017 Feb;85(2):77-84	Original Article
13	Morioka H, Takahashi S, Araki N et al.	医学部整形外科学	Results of sub-analysis of a phase 2 study on trabectedin treatment for extraskeletal myxoid chondrosarcoma and mesenchymal chondrosarcoma	BMC Cancer. 2016 Jul 14;16:479	Original Article
14	Shigeta K, Hasegawa H, Okabayashi K et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Randomized phase II trial of TEGAFIRI (tegafur/uracil, oral leucovorin, irinotecan) compared with FOLFIRI (folinic acid, 5-fluorouracil, irinotecan) in patients with unresectable/recurrent colorectal cancer	Int J Cancer. 2016 Aug 15;139(4):946-54	Original Article
15	Mori T, Kanda Y, Takenaka K et al.	医学部内科学(血液)	Safety of ASP0113, a cytomegalovirus DNA vaccine, in recipients undergoing allogeneic hematopoietic cell transplantation: an open-label phase 2 trial	Int J Hematol. 2017 Feb;105(2):206-212	Original Article
16	Kanzaki S, Hashiguchi K, Wakabayashi K et al.	医学部耳鼻咽喉科学	Histamine antagonist Bepotastine suppresses nasal symptoms caused by Japanese cedar and cypress pollen exposure	J Drug Assess. 2016 Sep 27;5(1):15-23	Original Article
17	Sukegawa H, Maekawa Y, Yuasa S et al.	医学部内科学(循環器)	Intensive statin therapy stabilizes C-reactive protein, but not chemokine in stable coronary artery disease treated with an everolimus-eluting stent	Coron Artery Dis. 2016 Aug;27(5):405-11	Original Article
18	Hamamoto Y, Mizusawa J, Katayama H et al.	医学部腫瘍センター	Inter-institutional survival heterogeneity in chemoradiation therapy for esophageal cancer: exploratory analysis of the JCOG0303 study	Jpn J Clin Oncol. 2016 Apr;46(4):389-92	Original Article
19	Sakurai H, Suzuki T, Bies RR et al.	医学部精神・神経科学	Increasing Versus Maintaining the Dose of Olanzapine or Risperidone in Schizophrenia Patients Who Did Not Respond to a Modest Dosage: A Double-Blind Randomized Controlled Trial	J Clin Psychiatry. 2016 Oct;77(10):1381-1390	Original Article

20	Takemaru M, Sakamoto Y, Sakamoto T et al.	医学部形成外科学	Assessment of bioabsorbable hydroxyapatite for secondary bone grafting in unilateral alveolar cleft	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2016 Apr;69(4):493-6	Original Article
21	Hosoe N, Watanabe K, Miyazaki T et al.	医学部内視鏡センター	Evaluation of performance of the Omni mode for detecting video capsule endoscopy images: A multicenter randomized controlled trial	Endosc Int Open. 2016 Aug;4(8):E878-82	Original Article
22	Hosoe N, Matsukawa S, Kanno Y et al.	医学部内視鏡センター	Cross-sectional small intestinal surveillance of maintenance hemodialysis patients using video capsule endoscopy: SCHEMA study	Endosc Int Open. 2016 May;4(5):E589-96	Original Article
23	Susa M, Kikuta K, Nakayama R et al.	医学部整形外科学	CT guided cryoablation for locally recurrent or metastatic bone and soft tissue tumor: initial experience	BMC Cancer. 2016 Oct 13;16(1):798	Original Article
24	Takeuchi H, Goto O, Yahagi N et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Function-preserving gastrectomy based on the sentinel node concept in early gastric cancer	Gastric Cancer. 2017 Mar;20(Suppl 1):53-59	Original Article
25	Fujimura N, Obara H, Matsubara K et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Comparison of Early Sac Shrinkage with Third-Generation Stent Grafts for Endovascular Aneurysm Repair	J Vasc Interv Radiol. 2016 Oct;27(10):1604-1612	Original Article
26	Maekawa Y, Akita K, Tsuruta H et al.	医学部内科学(循環器)	Significant reduction of left atrial volume concomitant with clinical improvement after percutaneous transluminal septal myocardial ablation for drug-refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy, and its precise detection with multidetector CT	Open Heart. 2016 Jun 3;3(1):e000359(オンライン)	Original Article
27	Iwata T, Miyauchi A, Suga Y et al.	医学部産婦人科学(婦人科)	Neoadjuvant chemotherapy for locally advanced cervical cancer	Chin J Cancer Res. 2016 Apr;28(2):235-40	Original Article
28	Hayashi M, Abe T, Iwai M et al.	医学部血液浄化・透析センター	Safety of warfarin therapy in chronic hemodialysis patients: a prospective cohort study	Clin Exp Nephrol. 2016 Oct;20(5):787-794	Original Article
29	Iida M, Harada S, Kurihara A et al.	医学部産婦人科学(婦人科)	Profiling of plasma metabolites in postmenopausal women with metabolic syndrome	Menopause. 2016 Jul;23(7):749-58	Original Article

30	Ishiyama S, Mori Y, Nejima R et al.	医学部眼科学	Comparison of Long-Term Outcomes of Visual Function and Endothelial Cell Survival After Descemet Stripping Automated Endothelial Keratoplasty and Penetrating Keratoplasty Using Mixed-Effects Models	Cornea. 2016 Dec;35(12):1526-1532	Original Article
31	Soejima K, Yasuda H, Hirano T	病院臨床研究推進センター	Osimertinib for EGFR T790M mutation-positive non-small cell lung cancer	Expert Rev Clin Pharmacol. 2017 Jan;10(1):31-38	Original Article
32	Matsuda S, Takeuchi H, Kawakubo H et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Clinical outcome of transthoracic esophagectomy with thoracic duct resection: Number of dissected lymph node and distribution of lymph node metastasis around the thoracic duct	Medicine (Baltimore). 2016 Jun;95(24):e3839	Original Article
33	Kashiwagi K, Hosoe N, Takahashi K	医学部内視鏡センター	Prospective, randomized, placebo-controlled trial evaluating the efficacy and safety of propofol sedation by anesthesiologists and gastroenterologist-led teams using computer-assisted personalized sedation during upper and lower gastrointestinal endoscopy	Dig Endosc. 2016 Sep;28(6):657-64	Original Article
34	Fujishima S, Gando S, Daizoh S et al.	医学部総合診療教育センター	Infection site is predictive of outcome in acute lung injury associated with severe sepsis and septic shock	Respirology. 2016 Jul;21(5):898-904	Original Article
35	Yoshino T, Katayama K, Horiba Y et al.	医学部漢方医学センター	Predicting Japanese Kampo formulas by analyzing database of medical records: a preliminary observational study	BMC Med Inform Decis Mak. 2016 Sep 13;16:118	Original Article
36	Kawasaki M, Arai Y, Takayama M et al.	医学部百寿総合研究センター	Carotid atherosclerosis, cytomegalovirus infection, and cognitive decline in the very old: a community-based prospective cohort study	Age (Dordr). 2016 Apr;38(2):29	Original Article
37	Sawano M, Kohsaka S, Okamura T et al.	医学部内科学(循環器)	Independent Prognostic Value of Single and Multiple Non-Specific 12-Lead Electrocardiographic Findings for Long-Term Cardiovascular Outcomes: A Prospective Cohort Study	PLoS One. 2016 Jun 30;11(6):e0157563 (オンライン)	Original Article
38	Inohara T, Kohsaka S, Miyata H et al.	医学部内科学(循環器)	Performance and Validation of the U.S. NCDR Acute Kidney Injury Prediction Model in Japan	J Am Coll Cardiol. 2016 Apr 12;67(14):1715-22	Original Article
39	Shiraishi Y, Kohsaka S, Ueda I et al.	医学部内科学(循環器)	Degree of dyspnoea in patients with non-ST-elevation acute coronary syndrome: A report from Japanese multicenter registry	Int J Clin Pract. 2016 Dec;70(12):978-987	Original Article

40	Inohara T, Hayashida K, Yashima F et al.	医学部内科学(循環器)	Dual role guiding catheter: a new technique for patients requiring coronary protection during transcatheter aortic valve implantation	Cardiovasc Interv Ther. 2016 Apr;31(2):131-5	Original Article
41	Arai T, Yashima F, Yanagisawa R et al.	医学部内科学(循環器)	Prognostic value of liver dysfunction assessed by MELD-XI scoring system in patients undergoing transcatheter aortic valve implantation	Int J Cardiol. 2017 Feb 1;228:648-653	Original Article
42	Ikemura N, Sawano M, Miyata H et al.	医学部内科学(循環器)	Use of renin-angiotensin system inhibitors after coronary interventions in patients with the guideline-based indications: A report from a Japanese multicenter registry	Int J Cardiol. 2016 Dec 15;225:362-364	Original Article
43	Sawano M, Kohsaka S, Okamura T et al.	医学部内科学(循環器)	Validation of the european SCORE risk chart in the healthy middle-aged Japanese	Atherosclerosis. 2016 Sep;252:116-21	Original Article
44	Inohara T, Hayashida K, Watanabe Y et al.	医学部内科学(循環器)	Streamlining the learning process for TAVI: Insight from a comparative analysis of the OCEAN-TAVI and the massy registries	Catheter Cardiovasc Interv. 2016 Apr;87(5):963-70	Original Article
45	Yashima F, Yamamoto M, Watanabe Y et al.	医学部内科学(循環器)	Impact of underfilling and overfilling in balloon-expandable transcatheter aortic valve implantation assessed by multidetector computed tomography: Insights from the Optimized CathEter vAlvular iNtervention (OCEAN-TAVI) registry	Int J Cardiol. 2016 Nov 1;222:738-44	Original Article
46	Homma K	医学部救急医学	Contrast-induced Acute Kidney Injury	Keio J Med. 2016 Dec 25;65(4):67-73	Original Article
47	Murata M, Tsugu T, Kawakami T et al.	医学部臨床検査医学	Prognostic value of three-dimensional echocardiographic right ventricular ejection fraction in patients with pulmonary arterial hypertension	Oncotarget. 2016 Dec 27;7(52):86781-86790	Original Article
48	Watanabe Y, Uruha A, Suzuki S et al.	医学部内科学(神経)	Clinical features and prognosis in anti-SRP and anti-HMGCR necrotising myopathy	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2016 Oct;87(10):1038-44	Original Article
49	Fujisawa D, Inoguchi H, Shimoda H et al.	医学部精神・神経科学	Impact of depression on health utility value in cancer patients	Psychooncology. 2016 May;25(5):491-5	Original Article

50	Mizuno Y, Hofer A, Suzuki T et al.	医学部精神・神経科学	Clinical and biological correlates of resilience in patients with schizophrenia and bipolar disorder: A cross-sectional study	Schizophr Res. 2016 Aug;175(1-3):148-153	Original Article
51	Yuki K, Awano-Tanabe S, Ono T et al.	医学部眼科学	Risk Factors for Motor Vehicle Collisions in Patients with Primary Open-Angle Glaucoma: A Multicenter Prospective Cohort Study	PLoS One. 2016 Nov 29;11(11):e0166943 (オンライン)	Original Article
52	Mori T, Nakayama R, Endo M et al.	医学部整形外科	Forty-eight cases of leiomyosarcoma of bone in Japan: A multicenter study from the Japanese musculoskeletal oncology group	J Surg Oncol. 2016 Sep;114(4):495-500	Original Article
53	Wasano K, Kawasaki T, Yamamoto S et al.	医学部耳鼻咽喉科学	Pretreatment Hematologic Findings as Novel Predictive Markers for Facial Palsy Prognosis	Otolaryngol Head Neck Surg. 2016 Oct;155(4):581-7	Original Article
54	Japanese Study Group of Pediatric Chest Surgery, Kuroda T, Nishijima E, Maeda K et al.	医学部外科学(小児)	Perinatal features of congenital cystic lung diseases: results of a nationwide multicentric study in Japan	Pediatr Surg Int. 2016 Sep;32(9):827-31	Original Article
55	Yamada Y, Hoshino K, Irie R et al.	医学部外科学(小児)	The optimal immunosuppressive protocol for the portal vein infusion of PGE1 and methylprednisolone in pediatric liver transplantation for fulminant hepatic failure of unknown etiology	Pediatr Transplant. 2016 Aug;20(5):640-6	Original Article
56	Maeda J, Kosaki K, Shiono J et al.	医学部小児科学	Variable severity of cardiovascular phenotypes in patients with an early-onset form of Marfan syndrome harboring FBN1 mutations in exons 24-32	Heart Vessels. 2016 Oct;31(10):1717-23	Original Article
57	Hirata A, Okamura T, Sugiyama D et al.	医学部衛生学公衆衛生学	The Relationship between Very High Levels of Serum High-Density Lipoprotein Cholesterol and Cause-Specific Mortality in a 20-Year Follow-Up Study of Japanese General Population	J Atheroscler Thromb. 2016 Jul 1;23(7):800-9	Original Article
58	Hirata A, Okamura T, Sugiyama D et al.	医学部衛生学公衆衛生学	Impacts of chronic kidney disease and diabetes on cardiovascular mortality in a general Japanese population: A 20-year follow-up of the NIPPON DATA90 study	Eur J Prev Cardiol. 2017 Mar;24(5):505-513	Original Article
59	Fukai K, Harada S, Iida M et al.	医学部衛生学公衆衛生学	Metabolic Profiling of Total Physical Activity and Sedentary Behavior in Community-Dwelling Men	PLoS One. 2016 Oct 14;11(10):e0164877 (オンライン)	Original Article

60	Kishida N, Shinoda M, Itano O et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Increased Incidence of Thrombotic Microangiopathy After ABO-Incompatible Living Donor Liver Transplantation	Ann Transplant. 2016 Dec 13;21:755-764	Original Article
61	Matsuda S, Takeuchi H, Kawakubo H et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Current Advancement in Multidisciplinary Treatment for Resectable cStage II/III Esophageal Squamous Cell Carcinoma in Japan	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Oct 20;22(5):275-283	Original Article
62	Tomita K, Obara H, Sekimoto Y et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Evolution of Computed Tomographic Characteristics of Spontaneous Isolated Superior Mesenteric Artery Dissection During Conservative Management	Circ J. 2016 May 25;80(6):1452-9	Original Article
63	Matsuda T, Kurokawa Y, Yoshikawa T et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Clinicopathological Characteristics and Prognostic Factors of Patients with Siewert Type II Esophagogastric Junction Carcinoma: A Retrospective Multicenter Study	World J Surg. 2016 Jul;40(7):1672-9	Original Article
64	Niwa N, Kosaka T, Oya M et al.	医学部泌尿器科学	Placebo-Induced Severe Diarrhea in a Patient With Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer Participating in a Double-Blind, Randomized, Phase III International Trial	Clin Genitourin Cancer. 2016 Apr;14(2):e219-20	Original Article
65	Horibe M, Kaneko T, Yokogawa N et al.	医学部内科学(消化器)	A simple scoring system to assess the need for an endoscopic intervention in suspected upper gastrointestinal bleeding: A prospective cohort study	Dig Liver Dis. 2016 Oct;48(10):1180-6	Original Article
66	Matsuzaki J, Suzuki H, Masaoka T et al.	医学部内科学(消化器)	Influence of regular exercise on gastric emptying in healthy men: a pilot study	J Clin Biochem Nutr. 2016 Sep;59(2):130-133	Original Article
67	Booka E, Kamijo T, Matsumoto T et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Incidence and risk factors for postoperative delirium after major head and neck cancer surgery	J Craniomaxillofac Surg. 2016 Jul;44(7):890-4	Original Article
68	Chubachi S, Sato M, Kameyama N et al.	医学部内科学(呼吸器)	Identification of five clusters of comorbidities in a longitudinal Japanese chronic obstructive pulmonary disease cohort	Respir Med. 2016 Aug;117:272-9	Original Article
69	Sato M, Chubachi S, Sasaki M et al.	医学部内科学(呼吸器)	Impact of mild exacerbation on COPD symptoms in a Japanese cohort	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2016 Jun 9;11:1269-78	Original Article

70	Nishikawa A, Suzuki K, Kassai Y et al.	医学部内科学(リウマチ)	Identification of definitive serum biomarkers associated with disease activity in primary Sjogren's syndrome	Arthritis Res Ther. 2016 May 14;18(1):106	Original Article
71	Takeshita M, Kuno A, Suzuki K et al.	医学部内科学(リウマチ)	Alteration of matrix metalloproteinase-3 O-glycan structure as a biomarker for disease activity of rheumatoid arthritis	Arthritis Res Ther. 2016 May 21;18(1):112	Original Article
72	Takeuchi H, Fervaha G, Remington G	医学部精神・神経科学	Incidence of Antipsychotic-Associated Side Effects: Impact of Clinician Versus Patient Ratings and Change Versus Absolute Scores	J Clin Psychopharmacol. 2016 Dec;36(6):593-596	Original Article
73	Nishizawa T, Suzuki H, Arano T et al.	医学部内科学(消化器)	Characteristics of gastric cancer detected within 1 year after successful eradication of Helicobacter pylori	J Clin Biochem Nutr. 2016 Nov;59(3):226-230	Original Article
74	Fujinami K, Kameya S, Kikuchi S et al.	医学部眼科学	Novel RP1L1 Variants and Genotype-Photoreceptor Microstructural Phenotype Associations in Cohort of Japanese Patients With Occult Macular Dystrophy	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Sep 1;57(11):4837-46	Original Article
75	Mizuno Y, Wartelsteiner F, Frajo-Apor B	医学部精神・神経科学	Resilience research in schizophrenia: a review of recent developments	Curr Opin Psychiatry. 2016 May;29(3):218-23	Review
76	Sano M, Takei M, Shiraishi Y et al.	医学部内科学(循環器)	Increased Hematocrit During Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor Therapy Indicates Recovery of Tubulointerstitial Function in Diabetic Kidneys	J Clin Med Res. 2016 Dec;8(12):844-847	Review
77	Sano M, Kamitsuji S, Kamatani N et al.	医学部内科学(循環器)	Genome-Wide Association Study of Absolute QRS Voltage Identifies Common Variants of TBX3 as Genetic Determinants of Left Ventricular Mass in a Healthy Japanese Population	PLoS One. 2016 May 19;11(5):e0155550(オンライン)	Original Article
78	Ueda M, Iwasaki E, Suzuki H	医学部内科学(消化器)	Profile of acotiamide in the treatment of functional dyspepsia	Clin Exp Gastroenterol. 2016 Apr 6;9:83-8	Review
79	Shigeta K, Okabayashi K, Hasegawa H et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Meta-analysis of laparoscopic surgery for recurrent Crohn's disease	Surg Today. 2016 Aug;46(8):970-8	Original Article

80	Yamada T, Okabayashi K, Hasegawa H et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Meta-analysis of the risk of small bowel obstruction following open or laparoscopic colorectal surgery	Br J Surg. 2016 Apr;103(5):493-503	Original Article
81	Yaguchi T, Kawakami Y	医学部先端研(細胞)	Cancer-induced heterogeneous immunosuppressive tumor microenvironments and their personalized modulation	Int Immunol. 2016 Aug;28(8):393-9	Review
82	Yamaoka K	医学部内科学(リウマチ)	Janus kinase inhibitors for rheumatoid arthritis	Curr Opin Chem Biol. 2016 Jun;32:29-33	Review
83	Kishimoto T, Chawla JM, Hagi K et al.	医学部精神・神経科学	Single-dose infusion ketamine and non-ketamine N-methyl-d-aspartate receptor antagonists for unipolar and bipolar depression: a meta-analysis of efficacy, safety and time trajectories	Psychol Med. 2016 May;46(7):1459-72	Original Article
84	Uno S, Hase R, Kobayashi M et al.	医学部感染制御センター	Short-course antimicrobial treatment for acute cholangitis with Gram-negative bacillary bacteremia	Int J Infect Dis. 2017 Feb;55:81-85	Original Article
85	Osawa Y, Arai Y, Takayama M et al.	医学部百寿総合研究センター	Identification of dietary patterns and their relationships with general and oral health in the very old	Asia Pac J Clin Nutr. 2017 Mar;26(2):262-270	Original Article
86	Suzuki T	医学部麻酔学	Does the combination use of two pain assessment tools have a synergistic effect?	J Intensive Care. 2017 Jan 3;5:1 (オンライン)	Original Article
87	Arai T, Yashima F, Yanagisawa R et al.	医学部内科学(循環器)	Prognostic value of liver dysfunction assessed by MELD-XI scoring system in patients undergoing transcatheter aortic valve implantation	Int J Cardiol. 2017 Feb 1;228:648-653	Original Article
88	Mizushima J, Uchida H, Tada M et al.	医学部精神・神経科学	Early Improvement of Specific Symptoms Predicts Subsequent Recovery in Bipolar Depression: Reanalysis of the Systematic Treatment Enhancement Program for Bipolar Disorder (STEP-BD) Data	J Clin Psychiatry. 2017 Feb;78(2):e146-e151	Original Article
89	Kawashima M, Yamada M, Suwaki K et al.	医学部眼科学	A Clinic-based Survey of Clinical Characteristics and Practice Pattern of Dry Eye in Japan	Adv Ther. 2017 Mar;34(3):732-743	Original Article
90	Shiba D, Hosoda S, Yaguchi S et al.	医学部眼科学	Safety and Efficacy of Two Trabecular Micro-Bypass Stents as the Sole Procedure in Japanese Patients with Medically Uncontrolled Primary Open-Angle Glaucoma: A Pilot Case Series	J Ophthalmol. 2017;2017:9605461	Original Article
91	Kaido M, Ibrahim OM, Kawashima M et al.	医学部眼科学	Eyelid cleansing with ointment for obstructive meibomian gland dysfunction	Jpn J Ophthalmol. 2017 Jan;61(1):124-130	Original Article

92	Hongo H, Kikuchi E, Matsumoto K et al.	医学部泌尿器科学	Novel algorithm for management of acute epididymitis	Int J Urol. 2017 Jan;24(1):82-87	Original Article
93	Fukuoka R, Kohno T, Kohsaka S et al.	医学部内科学(循環器)	Nocturnal intermittent hypoxia and short sleep duration are independently associated with elevated C-reactive protein levels in patients with coronary artery disease	Sleep Med. 2017 Jan;29:29-34	Original Article
94	Mizuno S, Nanki K, Matsuoka K et al.	医学部内科学(消化器)	Single fecal microbiota transplantation failed to change intestinal microbiota and had limited effectiveness against ulcerative colitis in Japanese patients	Intest Res. 2017 Jan;15(1):68-74	Original Article
95	Takeuchi T, Nakajima R, Komatsu S et al.	医学部内科学(リウマチ)	Impact of Adalimumab on Work Productivity and Activity Impairment in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis: Large-Scale, Prospective, Single-Cohort ANOUVEAU Study	Adv Ther. 2017 Mar;34(3):686-702	Original Article
96	Takahashi C, Kaneko Y, Okano Y et al.	医学部内科学(リウマチ)	Association of erythrocyte methotrexate-polyglutamate levels with the efficacy and hepatotoxicity of methotrexate in patients with rheumatoid arthritis: a 76-week prospective study	RMD Open. 2017 Jan 3;3(1):e000363 (オンライン)	Original Article
97	Suzuki T, Suzuki Y, Okuda J et al.	医学部麻酔学	Sepsis-induced cardiac dysfunction and beta-adrenergic blockade therapy for sepsis	J Intensive Care. 2017 Mar 3;5:22(オンライン)	Review
98	Hayashida K, Kondo Y, Hara Y et al.	医学部救急医学	Head-to-head comparison of procalcitonin and presepsin for the diagnosis of sepsis in critically ill adult patients: a protocol for a systematic review and meta-analysis	BMJ Open. 2017 Mar 6;7(3):e014305 (オンライン)	Review
99	Nagoshi N, Tetreault L, Nakashima H et al.	医学部整形外科	Return to play in athletes with spinal cord concussion: a systematic literature review	Spine J. 2017 Feb;17(2):291-302	Review
##	Takeuchi H, Goto O, Yahagi N et al.	医学部外科学(一般・消化器)	Function-preserving gastrectomy based on the sentinel node concept in early gastric cancer	Gastric Cancer. 2017 Mar;20(Suppl 1):53-59	Review
##	Kasuga A, Hamamoto Y, Takeuchi A et al.	医学部内科学(消化器)	Positive relationship between subsequent chemotherapy and overall survival in pancreatic cancer: meta-analysis of postprogression survival for first-line chemotherapy	Cancer Chemother Pharmacol. 2017 Mar;79(3):595-602	Review

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
手順書の主な内容 人を対象とする医学系研究に関する標準業務手順書 人を対象とする医学系研究における安全性情報の取り扱いに関する標準業務手順書 人を対象とする医学系研究に関する個人情報保護ガイドライン 人体から取得された試料および情報等の保管に関する標準業務手順書 人を対象とする医学系研究に関する慶應義塾大学医学部倫理委員会標準業務手順書 臨床研究に関する慶應義塾大学医学部倫理委員会標準業務手順書 臨床研究における安全性情報の取り扱いに関する手順書 臨床研究に関する個人情報保護ガイドライン 臨床研究に関する標準業務手順書 慶應義塾大学医学部倫理委員会内規	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 慶應義塾利益相反マネジメント・ポリシー 慶應義塾利益相反マネジメント内規 大学病院臨床研究利益相反マネジメント委員会内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年8回
<p>・研修の主な内容</p> <p><倫理審査委員会の委員向けの研修会（平成28年度実績）> 着床前診断と着床前スクリーニング iPS細胞を含んだ再生医療の最新動向 iPS細胞の保管と品質管理について 人を対象とする医学系研究の倫理指針の改正への対応について</p> <p><臨床研究の研究者向けの講習会（平成28年度実績）> 治験・臨床研究適正実施研修会（2回） 「人を対象とする医学系研究の倫理指針」の改訂セミナー 重篤有害事象（SAE）セミナー</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">臨床カンファレンス、セミナーの開催、特に慶應総合診療グラウンドを開催し双方向性討論の展開によりEBMへのアプローチを明確化大学病院と地域の教育中核病院間のインターネットを用いた遠隔カンファレンス・セミナーの開催臨床カンファレンスおよびセミナーでの講演内容のオンサイトによる録画の上、ストリーミング配信システムから配信高度な臨床スキルや手術的技能の習得のために、手術を含む種々の臨床手技シミュレーションを実践できるeラーニングコンテンツの提供情報リテラシー、EBM教育のために必要な電子図書・雑誌の充実高度な専門医療技術の修得、医療安全の向上を図るための医療シミュレーター機器を用いた専門臨床研修会の開催Cadaverを用いたクリニカル・アトミーラボ（臨床解剖ラボ）での高度な専門診療技能の修得と基本手技を含む高度な手術手技の熟練および臨床スキル向上を目的とするセミナーの開催高度な先進医療や臨床研究の実施に欠かせない、医療倫理、研究倫理、医療安全に関するセミナーの開催

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	216人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
岡本 真一郎	内科、血液内科	教室主任・診療科部長・教授	38年3ヶ月	内科統括
川田 一郎	内科	専修医担当主任・専任講師	19年4ヶ月	内科統括
福田 恵一	循環器内科	診療科部長・教授	34年0ヶ月	
別役 智子	呼吸器内科	診療科部長・教授	28年4ヶ月	
金井 隆典	消化器内科	診療科部長・教授	29年3ヶ月	
伊藤 裕	腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長・教授	34年4ヶ月	
鈴木 則宏	神経内科	診療科部長・教授	40年3ヶ月	
山岡 邦宏	リウマチ・膠原病内科	診療科部長・准教授	14年4ヶ月	
北川 雄光	一般・消化器外科	教室主任・教授	31年3ヶ月	外科統括
林田 哲	外科	専修医担当主任・専任講師	17年5ヶ月	外科統括
長谷川博俊	一般・消化器外科	診療科部長・准教授	30年5ヶ月	
黒田 達夫	小児外科	診療科部長・教授	35年4ヶ月	
志水 秀行	心臓血管外科	診療科部長・教授	31年4ヶ月	
浅村 尚生	呼吸器外科	診療科部長・教授	34年4ヶ月	
吉田 一成	脳神経外科	教室主任・診療科部長・教授	36年10ヶ月	
森崎 浩	麻酔科	教室主任・診療科部長・教授	34年3ヶ月	
松本 守雄	整形外科	教室主任・診療科部長・教授	31年3ヶ月	
貴志 和生	形成外科	教室主任・診療科部長・教授	29年3ヶ月	
高橋 孝雄	小児科	教室主任・診療科部長・教授	35年3ヶ月	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 守	産科	診療科部長・教授	31年4ヶ月	
青木 大輔	婦人科	教室主任・診療科部長・教授	35年4ヶ月	産婦人科統括
坪田 一男	眼科	教室主任・教授	36年9ヶ月	
根岸 一乃	眼科	診療科部長・教授	16年5ヶ月	
天谷 雅行	皮膚科	教室主任・教授	32年3ヶ月	
海老原 全	皮膚科	診療科部長・准教授	12年3ヶ月	
大家 基嗣	泌尿器科	教室主任・診療科部長・教授	30年4ヶ月	
小川 郁	耳鼻咽喉科	教室主任・診療科部長・教授	35年9ヶ月	
三村 將	精神・神経科	教室主任・診療科部長・教授	33年3ヶ月	
陣崎 雅弘	放射線診断科	診療科部長・教授	30年3ヶ月	
茂松 直之	放射線治療科	教室主任・診療科部長・教授	34年3ヶ月	放射線科統括
中川 種昭	歯科・口腔外科	教室主任・診療科部長・教授	32年2ヶ月	
里宇 明元	リハビリテーション科	教室主任・診療科部長・教授	38年4ヶ月	
佐々木 淳一	救急科	教室主任・診療科部長・教授	28年3ヶ月	
亀山 香織	病理診断科	診療科部長・准教授	29年3ヶ月	
林 松彦	総合診療科	診療科部長・教授	40年3ヶ月	
村田 満	臨床検査科	教室主任・診療科部長・教授	35年10ヶ月	
田野崎隆二	輸血・細胞療法センター	センター長・診療部長・教授	32年4ヶ月	
三村 將	漢方医学センター	センター長・診療部長・教授	33年3ヶ月	
松本 秀男	スポーツ医学総合センター	センター長・診療部長・教授	39年2ヶ月	
林 松彦	血液浄化・透析センター	センター長・診療部長・教授	40年3ヶ月	
長谷川 直樹	感染制御センター	センター長・診療部長・教授	17年5か月	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 該当なし・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 北川 雄光	
管理担当者氏名	事務局長 本田 博哉	

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	秘書課	診療記録として保管している記録は、 ○紙媒体→一患者一番号制で外来・入院別に分けて集中管理を実施 ○電子媒体→情報システム内にて、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に沿った管理を実施 ○診療記録は病院外への持ち出しを禁止とする。但し、裁判所その他公的機関から要請があった場合は、病院長の許可を得て、病院外へ持ち出すことができる。	
		各科診療日誌	各診療科		
		処方せん	薬剤部		
		手術記録	医事統括室		
		看護記録	医事統括室		
		検査所見記録	医事統括室		
		エックス線写真	医事統括室		
		紹介状	医事統括室		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事統括室		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	PCまたは紙媒体で保管	
		高度の医療の提供の実績	医事統括室		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	臨床研究推進センター		
		高度の医療の研修の実績	専修医研修センター		
		閲覧実績	医事統括室		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事統括室		
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事統括室 薬剤部		
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	PCまたは紙媒体で保管	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
	第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	PCまたは紙媒体で保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学室	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学室			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事統括室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 総務課		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		
			PCまたは紙媒体で保管

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

・病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	北川 雄光		
閲覧担当者氏名	本田 博哉		
閲覧の求めに応じる場所	病院内 相談室		
閲覧の手続の概要			
・診療に関するもの ⇒ 当院規定の開示手続きによる ・病院管理および運営に関するもの ⇒ 状況に応じ対応			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

・病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>当院における医療安全管理体制の確立、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、指針を示し、適切な医療安全管理を推進し、安全な医療の提供に資することを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 医療安全管理に関する基本的な考え方2) 組織及び体制3) 院内安全対策委員会の設置4) 医療安全管理部の設置5) 外部監査6) 特定機能病院間相互のピアレビュー7) 医療安全管理のための教職員研修8) 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策9) 医療事故等発生時の対応10) その他医療安全の推進のために必要な方針11) 患者への情報提供12) 患者からの相談への対応	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 11 回(8月を除く)</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 医療事故を未然に防止するための効果的な院内体制の確立2) 重大な問題が発生した場合の速やかな原因究明の為の調査及び分析3) 分析結果による改善の方策の立案及び実施、従業者への周知4) 医療事故防止のための具体的対策の検討及び推進5) 医療事故防止のための研修及び教育6) 医療安全に資する診療内容等についてのモニタリング	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>年間に定例で4回（全教職員必須の1回を含む）の研修を実施している。この他に各種ワーキンググループや部門で安全管理のための研修を実施しており、昨年度は年間8回開催した。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 報告書、年間集計・分析報告、医療機器・医薬品安全管理、臨床研究臨床隣地2) 医療事故対応 事故事例から、医療安全と患者相談3) 「心肺蘇生法」再確認、エマージェンシーコール、BLS	

- 4) 周産期・小児領域インシデント・アクシデント報告、「医療安全」の視点からみたIC
- 5) 看護安全推進講習：誤薬/転倒・転落/チューブトラブル/その他事故の集計・分析
- 6) 呼吸管理講習：経口摂取開始と呼吸器RHのリスク管理、超急性期の呼吸ケア 他
- 7) 認知症が疑われる患者さん～安心・安全なケアと医師決定支援～

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容
 - 1) 事故報告書は電子カルテにソフトを導入し、全教職員が使用できる。
 - 2) 報告ルート：報告者→部門セーフティマネジャー→医療安全管理者→
医療安全管理部長・病院長
 - 3) 改善のための方策立案
 - ・ インシデント・アクシデント事例の詳細な把握、検討等を行い医療事故の防止に資するため、各部門・部署にセーフティマネジャーを配置する。部門内での安全対策に関する会議を開催。
 - ・ 大学病院におけるインフォームド・コンセントの適切な管理と適正な運営を目的として、インフォームド・コンセント委員会を設置し、患者が意思決定するために必要な項目を網羅した、説明・同意文書の標準フォーマットを作成し、既存文書からの変更、新規文書の作成を行っている。
 - ・ 画像、内視鏡等の検査レポートの未読、未対応事例への対応として、「画像レポート未読防止ワーキンググループ」を設置し、短期的な対応策、中・長期的な対応策の検討を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>慶應義塾大学病院感染対策指針</p> <p>院内感染の防止、感染の制御、拡大防止のため、病院感染防止対策を全病院職員が把握して、感染源の速やかな特定、制圧、終息を図ることを本指針の目的としている。</p> <p>病院の理念に基づき、患者の皆様および病院職員に安全で快適な医療環境を提供するため、感染防止および感染制御の対策に取り組むための基本的な考え方。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 病院感染対策に関する基本的な考え方2) 感染制御部の設置3) 感染対策運営委員会および感染専門委員会の設置4) 職員研修5) 感染発生状況の報告6) 感染発生時の対応7) 患者への情報提供と説明8) 病院における感染対策の推進	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 19回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 感染対策運営委員会 開 催：月1回（年12回）適宜臨時開催 役 割：病院感染に関する報告事項を受けて、病院感染対策にかかわる具体的施策等を審議し、感染制御部（ICT）に助言を行う。 構成員：病院長、看護部長、薬剤部長、臨床検査科診療科部長、事務局長、輸血・細胞療法センター長、食養管理室長、臨床検査技術室長、中央滅菌医療資材室長、ICTメンバーなど（平成28年3月より25名、7月より26名、10月より25名） 主な報告内容：薬剤耐性菌・血液培養陽性などの微生物検査結果の動向、病院内で発生している感染症の発生状況、抗菌薬など感染症治療薬の使用状況と適正使用に関する内容など。主な審議検討事項は、発生調査や感染対策の実施や内容について決定する。結果を受け、内容の評価を行う。 （例）インフルエンザ、RSウイルス感染症、薬剤耐性菌複数発生などの際に、ICTからの情報をもとに患者隔離、当該病棟入院中の他患者への対応、新入院の制限実施、終息の決定。2) 感染専門委員会 開 催：隔月（年6回）適宜、臨時開催 6月に臨時開催 役 割：感染制御部（ICT）が策定し、感染対策運営委員会が承認した感染防止に関わる施策等を病院内のすべての部署に周知徹底し、迅速かつ確実に対策を実施する。各委員は、診療科内・部門内の教職員などで、感染症が発生した場合、情報収集やしかるべき初期対策を実施して、ICTに通報し、ICTと連携して対応に努める。 構成員：全診療科、全部門・全部署の代表者52名（平成28年5月より53名） 主な報告・周知内容：薬剤耐性菌・血液培養陽性などの微生物検査結果の動向、病院内で発生している感染症の発生状況と感染対策、抗菌薬など感染症治療薬の使用状況と適正な使用方法、各部門・部署での遵守率調査結果、結核の早期発見、血液曝露発生状況、院内感染対策教育の推進など。	

<例>インフルエンザ、RSウイルス感染症、薬剤耐性菌複数発生などの際に感染専門委員は、ICTのリーダーシップのもと、現場対応に協力する。診療科・部門内で自らが主体的に取組み、主治医らへの指導、患者への説明、それぞれの情報の取りまとめなどを実施する。
6月臨時開催は、9N病棟においてメタロβラクタマーゼ産生菌のアウトブレイクがあり、緊急招集し発生状況を共有し、対策の徹底をはかった。

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年 6回

・ 研修の主な内容：

全教職員に感染対策の基本的な考え方と具体的な方策を周知徹底し、意識向上を目標に感染対策に関する研修を実施し、出席状況を管理する。全教職員は必須講習会を含む年2回の講習会を必ず受講する。手指衛生や、適切な防護具着用、結核用N95マスクフィットテストなどは対象別に実施している。

平成28年度実施状況

時期	対象	主な内容
5月	全教職員必須研修	感染症診療と感染対策の基本、院内の感染発生状況年度報告
7月	全教職員	グローバル化時代の感染症危機管理 (外部講師による全般的な内容)
10月	全教職員	インフルエンザを中心とした冬の感染症 腸管感染症など教職員の健康管理について
10月	小児系教職員	小児領域の特徴的な感染対策 RSウイルス感染症と感染対策 ESBL産生菌対策 外科系の感染対策
11月	看護系職員	見直そう、スタンダードプリコーション 手指衛生の現状報告と5つのタイミングの再確認 差し込み便器の行動レベルの洗浄方法
1月	全教職員	抗菌薬の知識 培養検査オーダー時の留意事項 培養検体採取時の注意点

対象者は、2,919名で1人平均3.04回受講した（eラーニング含む）。3月末までに対象者全員が2回以上受講。

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染制御部（ICT）が中心となり、下記内容を実施している。

1) 各種サーベイランス

- ・ 血液培養
- ・ 薬剤耐性菌・抗酸菌・アスペルギルスなど微生物別
- ・ ICUサーベイランス、HCUサーベイランス、NICUサーベイランス
- ・ BSI/UTI/VAPなどターゲット別サーベイランス
- ・ 一般・消化器外科SSIサーベイランス
- ・ 針刺し血液曝露
- ・ 手指衛生遵守率調査・防護具着用遵守率調査、使用量調査
- ・ インフルエンザ、感染性胃腸炎など教職員感染症発生状況

2) 各種ラウンド

- ・微生物データにもとづく薬剤耐性菌・血液培養ラウンド 全268回
毎日実施し、個々の患者の診療に役立てるようにしている。
- ・許可制・届出制特定抗菌薬ラウンド（使用状況把握および介入）
週2回以上実施。届出の確認、使用理由・適正などを確認。必要があれば量と種類について担当医と相談。
- ・感染対策担当者、施設・清掃担当者の協働による施設環境ラウンド 全84回
感染対策をすすめるうえで設備的な問題はないか、清掃が行き届いているか、現場での対策が実施できているかなどをチェックする。現場へのフィードバックを行い、その後の改善状況を把握する。各委員会へ報告し改善に努める。
- ・デバイス 全386回
CVカテーテル、尿道留置カテーテル、その他医療器具や患者環境など周辺を適宜確認する。
- ・網羅的ラウンド 延べ86回
内容を限定し短時間でもすべての病棟を毎週ラウンドし、全体の傾向や変化を把握し改善に活かすことを目的に実施。週2回実施し2回で全病棟をラウンドする。
- ・ターゲットラウンド 5回
短期的に解決をはかりたい場合に、内容あるいは対象部署を限定してラウンドする。

3) 院内周知・教育

- ・感染対策マニュアル作成および改訂
- ・教職員ポケットハンドブック作成および改訂
- ・ICTニュースと電子カルテCLIPシステムによる情報提供
- ・感染対策講習会と内容別・対象別講習会等の企画・実施

4) 院内周知確認と自己チェック

教職員が感染対策の内容や最新情報について把握しているか、具体的な感染対策を実施しているかを確認する内容で実施している。

5) 感染症診療と感染対策に関するコンサルテーション

医師、看護師、コメディカルなどからの個別の相談に応じる。

6) 職業感染対策

教職員健康管理部門である保健管理センターとの協働により下記を実施している。

- ・針刺し血液曝露
発生時の24時間対応、発生後フォロー、針刺し低減のための対策
- ・結核
新入職者のIGRA（Interferon-Gamma Release Assays）検査
ハイリスク医療従事者のIGRA検査年1回と胸部X線年2回の実施
医療従事者の最低年1回胸部X線必須
- ・流行性ウイルス疾患
水痘・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎の免疫獲得必須
年1回インフルエンザワクチン接種機会の提供

7) 地域連携

下記他施設との連携により、自施設の評価・改善に努める。

- ・私立医科大学1校との年1回の相互ラウンド
- ・国立がん研究センター中央病院への年1回視察と意見交換
- ・感染防止対策加算2取得施設との年4回の合同カンファレンス
- ・四谷第六小学校への手指衛生指導（1年生、6年生）

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 研修医・専修医オーダリングトレーニング（専修医50名、研修医58名） 平成28年4月4日から4月11日 実施 医薬品集に記載されている、基本的な薬剤の入力操作を習得する。 薬品名の入力方法、用法の選択方法、過去の処方を選択・コピーする方法、前回処方を参照する方法、処方の修正・削除、コメント入力など一般的な入力方法。分割・粉碎・経管投与など特殊な入力、セット入力などのトレーニング。2) 研修医注射点滴調製研修（参加人数：52名） 平成28年4月11日から5日間実施 「処方入力時の注意と点滴調製の手技」 注射薬を無菌的に調製する方法を実際の薬を用いて実習する。凍結乾燥品のバイアルを溶解し、補液へ混合シリンスリンを加える。配合変化を体験してその回避方法を学ぶ。 注射処方内服と異なり1回量で記載することを周知した。3) 第56回院内安全対策セミナー（必須セミナー 参加人数DVD視聴を含めて全員） 平成28年6月7日実施 「医薬品の安全使用について」 処方区分による記載単位の違い、ヘパリンの過量投与の事例と対応策、処方チェックシステムの機能、自動車等運転禁止に対する指導、持参薬のチェック対象となる経口避妊薬と月経困難症治療薬、および「指定薬物」について。4) 第57回院内安全対策セミナー（参加人数：173名） 平成28年9月27日実施 「医薬品副作用被害救済制度について」不支給事例を中心に解説。 持参薬のチェックマニュアル周知5) 看護師対象講演（参加人数：87名） 平成28年9月28日実施 「レブラミド、ボマリストの取り扱いについて」6) 看護師注射点滴調製研修（参加人数：111名） 平成29年2月22日実施 「薬剤の基礎知識と管理を含めた講義と演習」 静脈注射を実施するうえで薬剤の基礎知識と管理について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容： 年に2回手順書の内容をチェックリストとして作成し、病棟外来看護師、医師、薬剤師、診療放射線技師、ME等のセーフティマネージャーに、手順書に基づいて業務を行っているか確認を依頼している。その後、病棟・外来のラウンドを行い、手順書で変更になっている部分を中心に周知状況を確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無)

未承認薬、適応外使用・禁忌での使用は、医療安全管理部において申請を受けつける。
未承認薬は、医療安全管理部長が月1回開催される「未承認新規医薬品・医療機器評価委員会」に諮問する。その答申を医療安全管理部長うけて適否の判断を診療科部長に返す。適の場合、実施後その経過を医療安全管理部長へ報告する。
適応外使用・禁忌での使用も、医療安全管理部において申請を受けつける。医薬品安全管理者と医薬品情報室で提出されたエビデンス等申請内容を検討し、未承認新規医薬品・医療機器評価委員会委員長と合議のうえ適否を判断する。その結果を医療安全管理部長から申請科部長へ返す。主に禁忌での使用に関して監査マニュアルを作成し、内外用薬・注射薬の処方箋監査時に活用している。

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

昨年8月より、内外用薬でシートにバーコードが印刷されている薬品すべてを対象に、調剤時バーコードを使用して確認を行っている。また、注射薬の取り揃え、混合調製後の使用薬品の確認、病棟への注射薬払い出し等にバーコードを使用して確認を行っている。
腎機能に障害がある場合、服用量に制限もしくは禁忌となっている医薬品は、患者の直近の腎機能を確認し疑義照会を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 15 回
・ 研修の主な内容： 1) 人工呼吸器の取り扱いについて 2) 人工心肺装置及び補助循環装置の取り扱いについて 3) 除細動器の取り扱いについて 4) 血液浄化装置の取り扱いについて 5) 閉鎖式保育器の取り扱いについて 6) 診療用高エネルギー放射線発生装置の取り扱いについて 7) 診療用放射線照射装置の取り扱いについて 8) 新規医療機器・医療材料研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)	
・ 保守点検の主な内容： 臨床工学技士による点検・・・除細動器、一部人工呼吸器 業務委託による保守点検・・・人工呼吸器、人工心肺装置及び補助循環装置、血液浄化装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置 診療用放射線照射装置	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 未承認等の医療機器の承認及び確認 2) 院内のインシデント報告の内容分析及び報告 3) 医薬品医療総合機構 (PMDA) 及び日本医療機能評価機構からの安全性情報の確認と周知 4) 医療機器メーカーからの安全性情報の確認	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師)・ 歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>病院規程で「副病院長の内 1 名が医療安全管理責任者の任にあたることとする」と定められている。医療安全管理責任者と定期的に部内ミーティングを開催し、それぞれの管理責任者から報告を受け検討が必要な事項についてはミーティング等で検討し、必要に応じ院内安全対策委員会で報告・検討等行っている。また、至急の案件については、随時、電話やメール等で医療安全管理責任者へ報告し、指示を仰いでいる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1) 医政局通知で書かれている情報の整理・周知に対する業務状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「緊急安全性情報」、「医薬品・医療機器等安全性情報」は、電子ファイルを公的機関のウェブサイト等よりダウンロードし、薬剤部内イントラネットに保管・掲載する。・ 薬品添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要、使用上の注意の解説、各種文献、問い合わせの回答などの情報は、医薬品別ファイルにファイリングする。・ 製薬会社より添付文書等の改訂情報を得た場合には、医薬品別ファイル内の資料を最新版へ差し替える。・ 各種情報サービスにより得られた添付文書改訂情報に基づき、最新の添付文書及び改定案内が製薬会社より届いていないものは適宜リストアップし、製薬会社に請求する。・ 添付文書、インタビューフォーム等の改訂情報について、年1回程度各製薬会社に確認する。・ 医薬情報担当者は、毎朝、公的機関（国内、米国）の安全性情報、学術情報をウェブサイト、メール等でチェックする。 <p>2) 得られた情報のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対する周知</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「緊急安全性情報」、「医薬品・医療機器等安全性情報」が発出された場合、薬事委員を通じて各診療科へ電子メールにて配信し、院内の電子掲示板、電子カルテへ掲載し全職員へ周知する。必要に応じて別途お知らせを作成し配布する。・ 特に周知が必要な情報については、医療安全対策センターが使用しているシステムを活用して院内電子掲示板から周知を行う。（院内で閲覧したスタッフ人数が把握できるほか、閲覧していないスタッフに閲覧を促すことも可能）・ 薬剤部職員へは連絡用グループアドレスを用いたメール、および月1回の全体会議にて情報共有を行う。薬剤管理指導業務担当者には、情報担当と定期的開催しているミーティングで具体的な対応について情報共有を行い、必要に応じて病棟スタッフへの周知を依頼する。・ 「医薬品安全対策情報 (DSU)」、「使用上の注意の改訂指示」が発出された場合、当院の取り扱い品目に限り商品名を併記し、サマリーを追記した上で薬事委員へ電子メールにて案内を行い、同時に薬剤部員へも連絡する。	

- ・必要に応じて、全部署、全診療科に向けたインフォメーションの発出、院内イントラネット掲示板、電子カルテへ掲載、薬事委員、薬剤部員へメール配信する。
- ・特に安全面で影響が大きいと考えられる事例では、場合により患者を検索し薬事委員や専門医に連絡を取り対策を検討し、薬剤部員への情報共有をおこなう。

- ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況
未承認薬、適応外使用・禁忌での使用にかんして、医療安全管理部へ申請する仕組みとしている。申請された未承認薬、適応外使用・禁忌での使用に関して、医薬品安全管理者と医薬品情報室で必要性や論文のエビデンス確認をおこない、申請の妥当性を判断している。
内外用薬・注射薬処方箋を監査し、問題がある場合は疑義照会を行いその結果を電子カルテに記載している。医薬品安全管理者から申請のあった医薬品、疑義紹介を行った医薬品および医事統括室からの査定データをまとめて一月ごとに受けている。

・担当者の指名の有無 (有) 無

・担当者の所属・職種：

(所属：薬学部 ， 職種 薬剤師) (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)
 (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)
 (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)
 (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 (有) 無

- ・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) 無
- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容
診療記録管理監査委員会内規に基づき実施している

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 (有) 無

- ・診療録などの記載内容の確認、及び指導の主な内容：
「診療録の記載に関するガイドライン」を作成。副病院長を委員長とする診療記録管理監査委員会が、「診療記録監査実施要項」を基に多職種による監査を行っている。
結果は診療科責任者および病院診療会議・病院運営会議にフィードバックしている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況 (有) 無

- ・所属職員：専従 (8) 名、専任 (0) 名、兼任 (10) 名
うち医師：専従 (0) 名、専任 (0) 名、兼任 (5) 名
うち薬剤師：専従 (1) 名、専任 (0) 名、兼任 (1) 名
うち看護師：専従 (3) 名、専任 (0) 名、兼任 (0) 名
- (注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- 1) 医療安全管理部門の業務指針及び、医療安全管理者（専従）業務に関する申し合わせ等に準じて業務を遂行。
- 2) 教職員への安全管理に関する教育・指導（研修会の開催）ならびに検証（e-learning により理解度を確認）
- 3) 安全対策の企画・立案、重大医療事故発生時の対応ならびに検証
- 4) 院内安全対策委員会・安全管理に係わる WG の運営
- 5) 全死亡事例の把握
- 6) インフォームド・コンセント委員会を設置し、統一的な運用の確保、ガイドラインの改廃、説明同意文書の様式の制定と改定、検証と承認を行い、インフォームド・コンセントに関する院内周知、教育と指導を行う。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - 1) 当院で初めて導入する医療技術に対する（計画性、安全性、フォロー体制等）の審議
 - 2) 外保連試案「D」以上に対する技術的な体制
 - 3) 高難度新規医療技術評価委員会を設置し、導入に対する可否を審議する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - 1) 診療科が検討し提出された申請書確認し、運用フローに則り取り扱う。
 - 2) 未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会で審議された委員長からの意見書をふまえ、医療安全管理部長が決定した結果を診療科部門長等に通知する。

3) 診療録等の記載内容から、当該未承認等新規医薬品・医療機器が適正な手続きに基づいて使用されていたか、その遵守状況を確認する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 ・ 無

- ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 平成 28 年度(平成 28 年 9 月 30 日、平成 29 年 1 月 20 日)
平成 29 年度 (平成 29 年 8 月 9 日、平成 30 年 2 月 6 日予定)
- ・ 活動の主な内容：
 - 1) 病院長，医療安全管理責任者，医療安全管理部門，院内安全対策委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等から報告を求め，必要に応じて自ら確認する。
 - 2) 必要に応じ，塾長または病院長に対し，医療に係る安全管理については是正措置を講じるよう意見を表明する。
 - 3) 1 および 2 に掲げる監査結果を公表する。
- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 委員名簿の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法：病院の HP で公開している。 (業務実施結果の公表については準備中)

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 徹	虎の門病院	○	虎の門病院の元病院長であり、病院管理者として医療安全管理に携わり、幅広い知識と豊富な実務経験を有していること。また現在は日本医療安全調査機構の顧問として日本の医療安全の推進と教育に尽力されていること。	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
市村 尚子	名古屋大学附属病院		現職の大学病院看護部長であり、	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	1

			看護管理者として医療安全管理について十分な知識と実務経験を有していること。		
山口 育子	ささえあい医療人権センターCOML		医療を受ける者の立場を代表する患者支援団体の理事長として医療安全管理についての知識を有していること。また厚生労働省や日本医療安全調査機構等において各種委員を務めるなど、医療安全の向上のために幅広く活動し、尽力されていること。	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
宮沢 忠彦	関谷法律事務所		長年にわたり法曹界に身をおき、法律についての豊富な専門知識と実務経験を有していること。	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
中谷 比呂樹	慶應義塾大学		厚生労働省医官として医療行政に従事し、WHOでは感染症対策部門を牽引するなど、医療安全および国際的基準での対応について幅広い知識と国内・国外における経験を有していること。	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 325 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 2,882 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療安全管理部が管理日誌・周産期システムにより、死亡・死産を確認している。死産については、担当師長より報告を受けている。死亡・死産のカルテに「死亡・死産事例報告書」の記載状況を確認している。未入力の場合、担当医に連絡し入力をお願いしている。また、毎月、院内安全管理委員会に報告を行っている。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：獨協医科大学病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：獨協医科大学病院）・無
- ・技術的助言の実施状況
医療安全対策委員会において定められたチェックリストに基づき自己評価を行い、訪問側がそのチェックリストに沿って現場確認を行う。検査終了後、講評を行う。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者さんやそのご家族が気軽に相談できるように総合相談窓口を正面玄関横に配置し、窓口対応を午前 8 時 40 分から午後 4 時 30 分まで予約制なしで、相談（電話相談・メール相談を含む）を受付けている。窓口担当者には、看護師、MSW、事務員を専従で配置し、医療安全管理部と連携を取り、迅速かつ適切な対応を心がけている。
対応した相談内容は全例報告書を作成し電子カルテ内の報告システム（CLIP）で管理をおこない、医療安全管理部と相談内容の共有もおこなっている。院内安全対策委員会で月例報告をおこなっている。患者総合相談部と医療安全管理部のカンファレンスも実施し、相談内容の検討と情報共有をすると共に医療安全の機能の向上に努めている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 無）

- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
患者申出療養講習会（平成 28 年 5 月 10 日実施）
薬物に関する病院長特命セミナー（平成 28 年 7 月 20 日実施）

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況
平成 29 年 2 月 7 日に、病院長(管理者)、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等に向けて、リーガルアドバイザーの弁護士に依頼し、「医療の安全と法制度」について研修会を実施した。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 平成29年7月27日～28日に日本医療機能評価機構 (3rdG : ver. 1.1) を受審した。 12月頃には正式認定される予定。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページ、冊子 (総合案内、病院広報誌「すゝめ」) 等により随時発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 慶應義塾大学病院規程において、より良い治療を患者に提供することを目的として、複数の診療科や部門の教職員が対等な立場で組織横断的に連携・協力してチーム医療を実施するにあたっての活動単位を「診療クラスター」と位置付け、活動している。 現在、以下の診療クラスターがある。 [カッコ内は主な関連診療科] <ul style="list-style-type: none">・ブレストセンター [一般・消化器外科、形成外科 等]・母斑症センター [小児科、皮膚科、形成外科 等]・周産期・小児医療センター [小児科、小児外科、産科 等]・メモリーセンター [神経内科、精神神経科、リハビリテーション科]・IBD (炎症性腸疾患) センター [消化器内科、小児外科、産科 等]	

(様式第 8)

慶病企発第 29-2 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 慶應義塾
理事長 長谷山 彰 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

平成 29 年 2 月 7 日に、病院長(管理者)、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等に向けて、リーガルアドバイザーの弁護士に依頼し、「医療の安全と法制度」について研修会を行いました。平成 29 年 8 月 1 日病院長（管理者）の交代に伴い、平成 30 年 3 月までに病院長（管理者）に研修実施予定です。

2. 医療安全管理部門の人員体制

所属職員：専従（8）名、専任（0）名、兼任（10）名
うち医師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（5）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名
うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（0）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

専従の看護師、薬剤師は配置済みです。
医師に関しては、病院長が平成 30 年 3 月末までに専従医師 1 名を決定する予定です。